

若年層の痴漢被害等に関する オンライン調査

報告書

令和6年3月

株式会社 リベルタス・コンサルティング

－ 目 次 －

第1章 調査実施要領	1
1-1. 目的	1
1-2. 定義	1
1-3. オンライン調査概要	1
1-4. 本調査結果に関する留意点	4
第2章 オンライン調査結果	5
2-1. スクリーニング調査	5
2-2. 本調査	12
1) 「痴漢被害を受けたことがある」と回答した者の単純集計及び属性別集計結果	12
2) アンケート対象者（痴漢被害者）からの自由意見	42
参考資料 アンケート質問票	44
1) スクリーニング調査	44
2) 本調査	48

第1章 調査実施要領

1-1. 目的

痴漢は、個人の尊厳を踏みにじる行為であり、重大な犯罪である。また、被害にあっても相談や申告がしにくく、被害の潜在化も懸念される。

令和5年3月に取りまとめられた「痴漢撲滅に向けた政策パッケージ」では、「痴漢を含む性暴力被害の状況について、特に若年層の性暴力被害を対象とした調査を実施する」としている。

これを踏まえ、若年層の痴漢被害の実態やその傾向及び痴漢被害に対する認識を把握し、痴漢被害撲滅のために効果的な施策のあり方の検討に役立てることを目的に、若年層を対象としたオンライン調査を実施する。

1-2. 定義

本調査では、「若年層」及び「痴漢」を下記のように定義した。

- ◆若年層：16～29歳の方
- ◆痴漢：路上や商業施設などの公共の場所又は電車やバスなどの公共の乗物において、衣服の上から又は直接接触されたり、同意がなくされたわいせつな行為。なお、ぶつかられた、怒鳴られた、じっと見られたなどの迷惑行為は除く。

1-3. オンライン調査概要

(1) オンライン調査

本調査は、以下の「オンライン調査実施要領」に基づき、スクリーニング調査及び本調査を実施した。「オンライン調査実施要領」は下表のとおり。

図表 1-1 オンライン調査実施要領

項目	概要
対象	全国の16～29歳の方
実施方法1	オンライン調査 ((株)クロスマーケティング社「ネットリサーチ」の登録モニターに対するアンケート)
実施方法2	・スクリーニング調査(有効回答数36,231人) 痴漢被害にあった経験のある方の抽出目的に実施。 ・本調査(有効回答数2,346人) スクリーニング調査で抽出された痴漢被害経験者に対し、痴漢被害実態を把握することを目的に実施。
配信方法	年齢層別男女人口構成比にあわせて配信(配信数1,192,414人)
調査項目	・スクリーニング調査

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 性別、年齢、現在住んでいる都道府県 ➤ これまでに受けた性暴力の被害、今まで以上に行政の対策が必要だと思う性暴力の類型 ➤ 痴漢被害の目撃経験及び友人や知人の痴漢被害経験の有無、 ➤ 外出時の痴漢遭遇への不安 <p>・ 本調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 痴漢被害経験について <ul style="list-style-type: none"> ✓ 痴漢被害遭遇回数、加害者情報、はじめて痴漢被害を受けた年齢 ➤ 直近で受けた痴漢被害について <ul style="list-style-type: none"> ✓ 被害にあったときの年齢、職業・学校、都道府県、時間帯、場所、向かっていた場所 ✓ 加害者の性別、被害態様、被害にあったときに取った対応、対応の結果 ✓ 周囲の人に助けを求めたかどうか、周囲の人が被害者に気づいたかどうか、周囲の人が取った対応、対応の結果 ✓ 警察や関係機関職員への連絡の有無、加害者のその後 ➤ これまでに受けた痴漢被害について <ul style="list-style-type: none"> ✓ 周囲の人が被害に気づいたかどうか、何らかの対応をしれたことがあるか ✓ 相談の有無、相談相手がしてくれたこと、相談しなかった理由、警察に通報しなかった理由 ✓ 被害後に生じた生活への影響、被害にあわないために行動を変えたか、変えた行動について ➤ 痴漢被害について、世の中でどのように考えられていると感じるか、アンケートで答えきれなかった被害のこと、今後の取組で期待すること <p>※詳細は、「参考資料：調査票」を参照されたい。</p>
実施時期	2024年2月6～29日

(2) データクリーニング・集計

アンケート回答の中から、不誠実な回答や信頼性が低い回答（例：すべての選択肢にチェックをつける回答、「はじめて痴漢被害を受けた時の年齢」が「現在の年齢」より高い等の回答等）を除くデータクリーニングを行った上で、集計を行った。

(3) 属性別集計

回答者の属性に基づいて、地域区分別、年齢層別、性別に属性別集計を実施し、傾向を抽出した。なお、直近の痴漢被害経験についての項目については、(1) 地域区分別と(2) 年齢層別は、それぞれ「被害時に住んでいた」地域区分、「被害時の」年齢を用い

ている。また、選択肢の多い調査項目については下表のように選択肢を整理してから属性別集計を行った。

図表 1-2 属性別集計用選択肢整理表

調査項目	整理後選択肢	元選択肢
被害にあったときに住んでいた都道府県	三大都市圏 ¹	埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、岐阜県、愛知県、三重県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県
	地方圏	三大都市圏以外
被害にあった場所	乗り物内	電車内、バス、その他公共の乗り物（飛行機、船等）
	路上	路上
	店舗、施設内	駅構内（階段・エスカレーター）、駅構内（ホーム）、駅構内（その他の場所）、ショッピングモール等の商業施設、書店、映画館、ライブ・コンサート会場などのイベント会場、ゲームセンター・パチンコ店、その他の公共の場所
被害にあったときに取った対応 ²	何もできなかった	怖くて体が動かなかった、とっさのことで何もできなかった、混んでいて何もできなかった、我慢した
	避けた／逃げた	体の向きを変えた、持っている物で加害者の行為をブロックした、その場から離れた／逃げた、その場にしゃがみこんだ
	周囲の人／加害者への行動を取った	加害者の手をつかんだ、加害者の手を振り払った、振り返って加害者の顔を見た、にらんだ、声をあげた、周囲の人に助けを求めた、痴漢対策のアプリや防犯ブザーなどの防犯グッズを使った
周囲の人がとった対応 ³	加害者に働きかけてくれた	加害者に行為をやめるよう働きかけてくれた、加害者を捕まえてくれた
	あなたに働きかけてくれた	あなたを物理的に移動させて、又は移動できるようにして、助けてくれた、あなたに声をかけてくれた、一緒にいてくれた、加害者の引き渡しやあなたが被害を警察に通報するのを手伝ってくれた
	警察や関係機関に働きかけてくれた	警察に通報してくれた、関係機関の職員（交通機関の職員、お店の職員など）に連絡してくれた
	何もしてくれなかった	何もしてくれなかった

¹ 国土利用計画（全国計画）（令和 5 年 7 月 28 日閣議決定）に基づく埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、岐阜県、愛知県、三重県、京都府、大阪府、兵庫県及び奈良県の区域の全部。

² 分類後も複数回答となる場合は、「周囲の人／加害者への行動を取った」＞「避けた／逃げた」＞「何もできなかった」の優先順位で単一回答とした。また、「その他」は除外した。

³ 分類後も複数回答となる場合は、「加害者に働きかけてくれた」＞「あなたに働きかけてくれた」＞「警察や関係機関に働きかけてくれた」＞「何もしてくれなかった」の優先順位で単一回答とした。また、「その他」は除外した。

調査項目	整理後選択肢	元選択肢
友人・家族・相談機関など（警察は除く）に相談しなかった理由	学校や仕事に遅れると思ったから／急いでいたから	学校や仕事に遅れると思ったから／急いでいたから
	おおごとにしたくなかったから	おおごとにしたくなかったから
	誰にも知られたくなかったから／心配させたくないから	誰にも知られたくなかったから、心配させたくないから
	相談するほどのことではないと思ったから	相談するほどのことではないと思ったから
	被害経験や加害者に関する不安要因	被害を思い出したくなかったから／早く忘れたかったから／被害のことを話すのがつらかったから、加害者を捕まえる手がかりがなく、相談できないと思ったから、加害者からの仕返しが怖かったから
	相談に関する不安要因	痴漢被害なのか確証が持てなかったから、自分にも悪いところがあると思ったから、どこ（だれ）に相談してよいかわからなかったから、相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
	心理的な要因	ショックで何も考えられなかったから

1-4. 本調査結果に関する留意点

調査結果の比率は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示している。したがって、合計が100%にならない場合がある。

本調査結果は、登録モニターに対して、内閣府が実施する若年層の痴漢被害の実態・傾向等の把握を目的とした調査であることを示した上で、任意の回答者（＝積極的に回答いただいた方）から得られた回答に基づくものであることに留意する必要がある。

第2章 オンライン調査結果

以下、1) スクリーニング調査の結果 (p.5～)、2) 本調査の結果 (p.12～) について、順次記載する。

2-1. スクリーニング調査

スクリーニング調査では、オンライン調査の登録モニターのうち16～29歳の方に対して、全国の人口構成比(性別、年齢層別、地域別)を考慮しながら、配信を行った。その結果、全体で36,231人の有効回答が得られた。

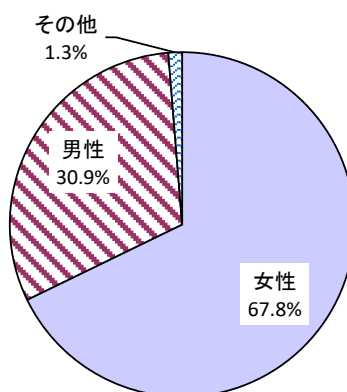
(1)回答者属性

下記にスクリーニング調査の回答者属性を示す。

①性別⁴

「女性」67.8%、「男性」30.9%、「その他」1.3%となっている。

図表 2-1 性別 (n=36,231)

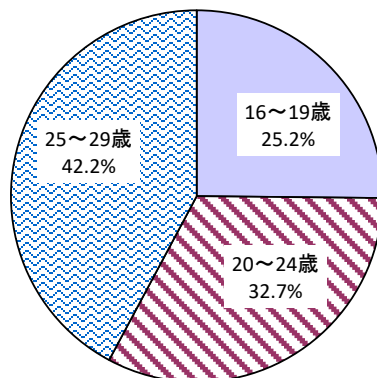


⁴ 「性別又は性自認」を尋ねたもの。

②年齢

「16～19歳」(25.2%)、「20～24歳」(32.7%)、「25～29歳」(42.2%)となっている。

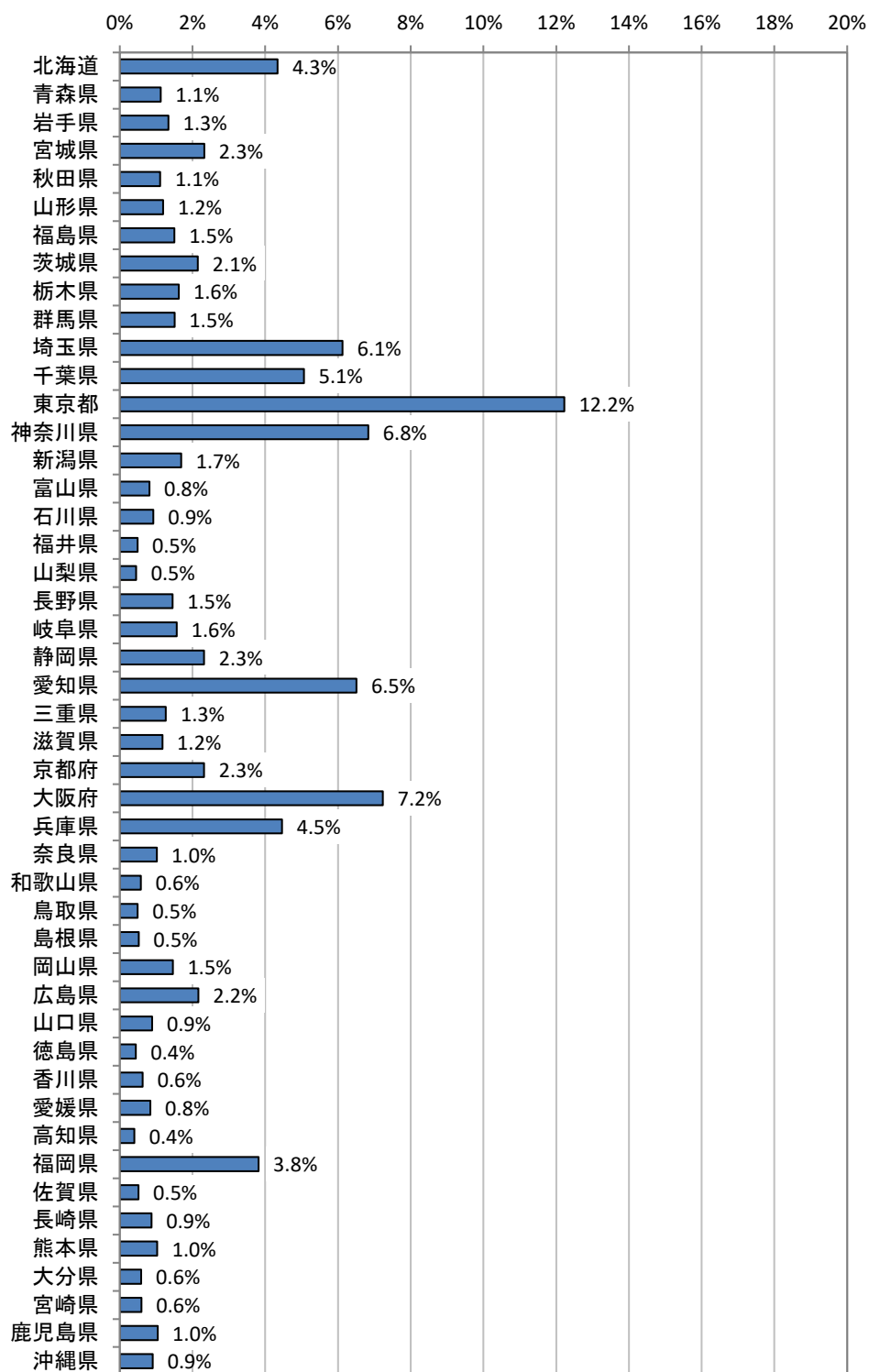
図表 2-2 年齢 (n=36,231)



③現在住んでいる都道府県

都道府県別には、「東京都」(12.2%)、「大阪府」(7.2%)、「神奈川県」(6.8%)、「愛知県」(6.5%)、「埼玉県」(6.1%)、「千葉県」(5.1%)、「兵庫県」(4.5%)、「福岡県」(3.8%)の順が多い。

図表 2-3 現在住んでいる都道府県 (n=36,231)



(2)性暴力の被害・目撃経験等

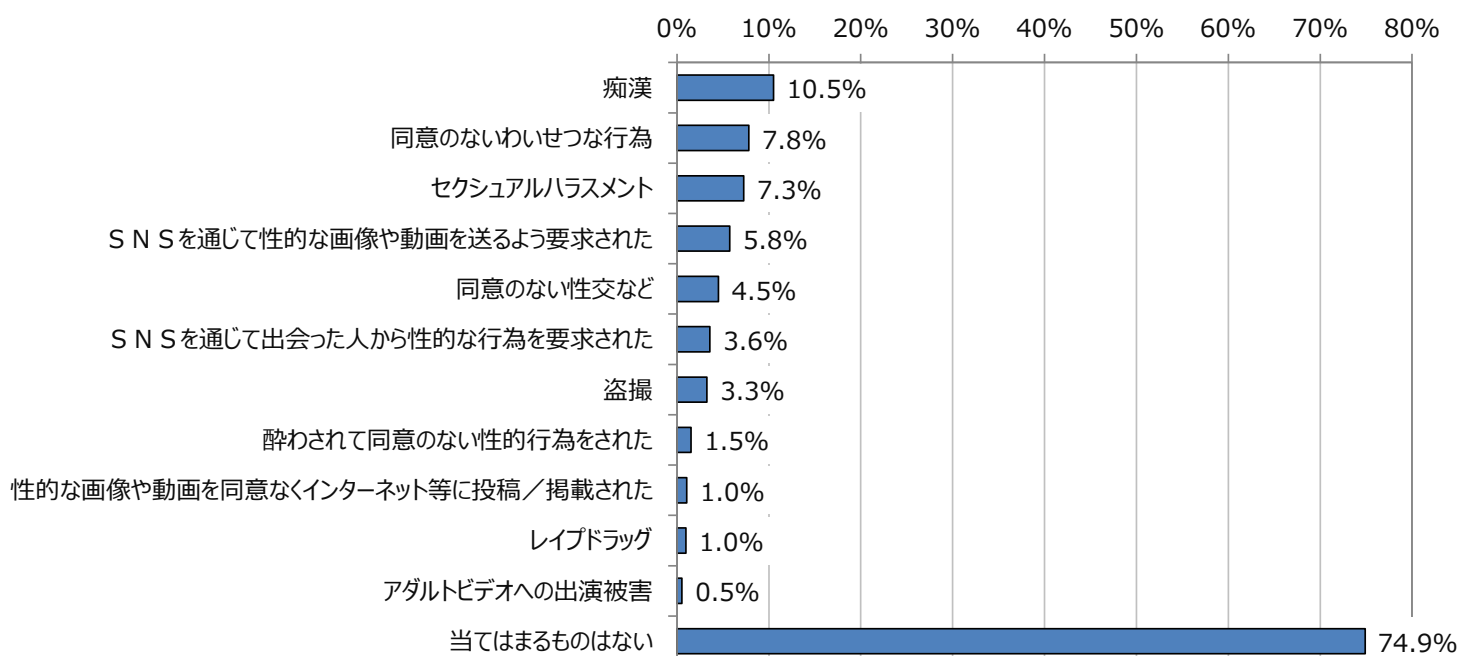
これまでに被害を受けた・目撃したことがある性暴力についてたずねた。

①これまでに受けたことがある性暴力の被害

「痴漢⁵」(10.5%)が最も多く、次いで「同意のないわいせつな行為⁶」(7.8%)、「セクシュアルハラスメント」(7.3%)、「SNSを通じて性的な画像や動画を送るよう要求された」(5.8%)、「同意のない性交など⁷」(4.5%)、「SNSを通じて出会った人から性的な行為を要求された」(3.6%)、「盗撮⁸」(3.3%)となっている。

図表 2-4 これまでに受けたことがある性暴力の被害(複数回答)

(n=36,231)



⁵ 路上や商業施設などの公共の場所又は電車やバスなどの公共の乗物において、衣服の上から又は直接接触されたり、同意がなくされたわいせつな行為。なお、ぶつかられた、怒鳴られた、じっと見られたなどの迷惑行為は除く。

⁶ 暴力や脅迫を用いられたものに限らないわいせつな行為

⁷ 暴力や脅迫を用いられたものに限らない性交、肛門性交、口腔性交、もしくは膣や肛門に指や物などを挿入する行為

⁸ 下着や性的部位をひそかに撮影されるもの

【属性別傾向】

性別

痴漢被害経験について回答者性別の集計を行った。

「女性」の痴漢被害経験は13.6%、「男性」の痴漢被害経験は3.6%となっている。

図表 2-5 回答者性別、痴漢被害経験

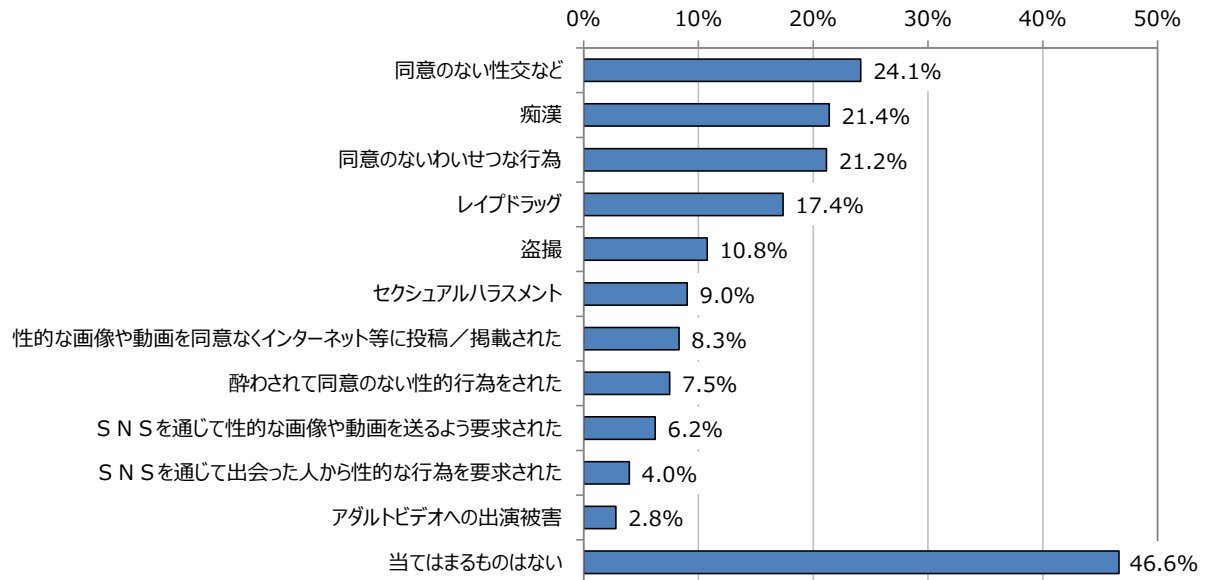
	痴漢被害経験	
女性	13.6%	(3,348/24,566)
男性	3.6%	(404/11,200)
その他	11.2%	(52/465)
合計	10.5%	(3,804/36,231)

②特に今まで以上に行政等による対策が必要だと思うもの

「同意のない性交など」(24.1%)が最も多く、次いで「痴漢」(21.4%)、「同意のないわいせつな行為」(21.2%)、「レイプドラッグ⁹」(17.4%)となっている。

図表 2-6 特に今まで以上に行政等による対策が必要だと思うもの

(複数回答、3つまで) (n=36,231)

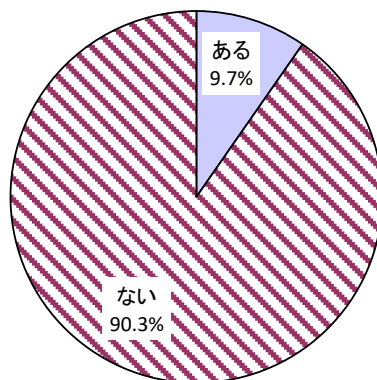


⁹ 相手の意識をもうろうとさせ、抵抗できない状況にして、性行為を行うために飲み物や食べ物に混ぜて使う睡眠薬などのクスリを用いた性的行為

③痴漢被害の目撃経験

痴漢被害を目撃したことが「ある」との回答は9.7%となっている。

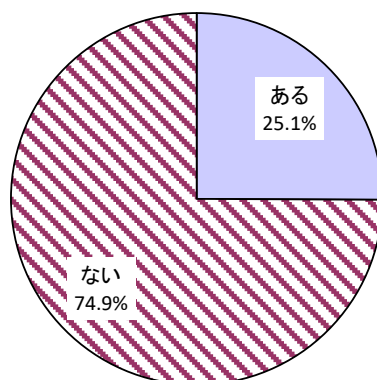
図表 2-7 痴漢被害の目撃経験 (n=36,231)



④友人や知り合いからその人が痴漢被害にあった話を聞いたことがあるか

友人や知り合いの痴漢被害を聞いたことが「ある」との回答は25.1%となっている。

図表 2-8 友人や知り合いからその人が痴漢被害にあった話を聞いたことがあるか (n=36,231)

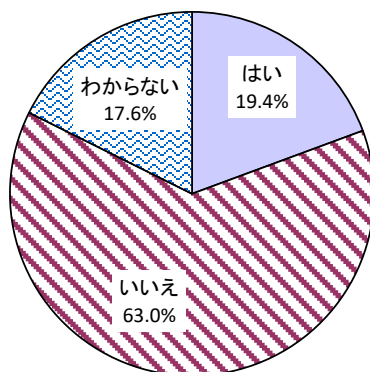


(3)性暴力に対する不安

①外出時の痴漢遭遇への不安

現在、通勤・通学時などの日常的な外出時に痴漢にあうのではないかと不安を感じているかについては、「はい」が19.4%となっている。

図表 2-9 外出時の痴漢遭遇への不安 (n=36,231)



2-2. 本調査

本調査では、スクリーニング調査で「痴漢被害を受けたことがある」と回答した方のうち、2,346人から有効回答が得られた（データクリーニング実施後）。以下、単純集計と属性別集計結果について記載する。

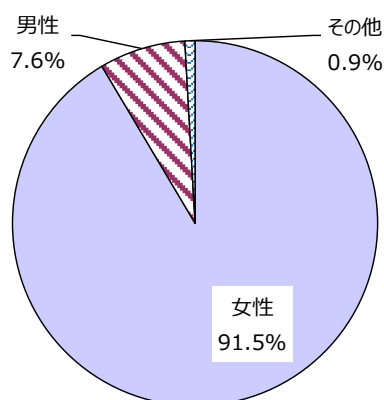
1) 「痴漢被害を受けたことがある」と回答した者の単純集計及び属性別集計結果

(1) 回答者属性

① 性別

「女性」91.5%、「男性」7.6%、「その他」0.9%となっている（なお、スクリーニング調査の回答者における比率は、それぞれ67.8%、30.9%、1.3%）。

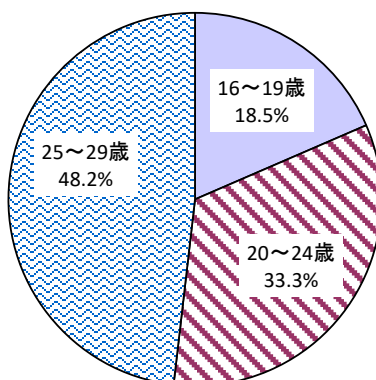
図表 2-10 性別 (n=2,346)



② 年齢

回答者の現在の年齢は、「16～19歳」(18.5%)、「20～24歳」(33.3%)、「25～29歳」(48.2%)となっている（スクリーニング調査の回答者における比率は、それぞれ25.2%、32.7%、42.2%）。

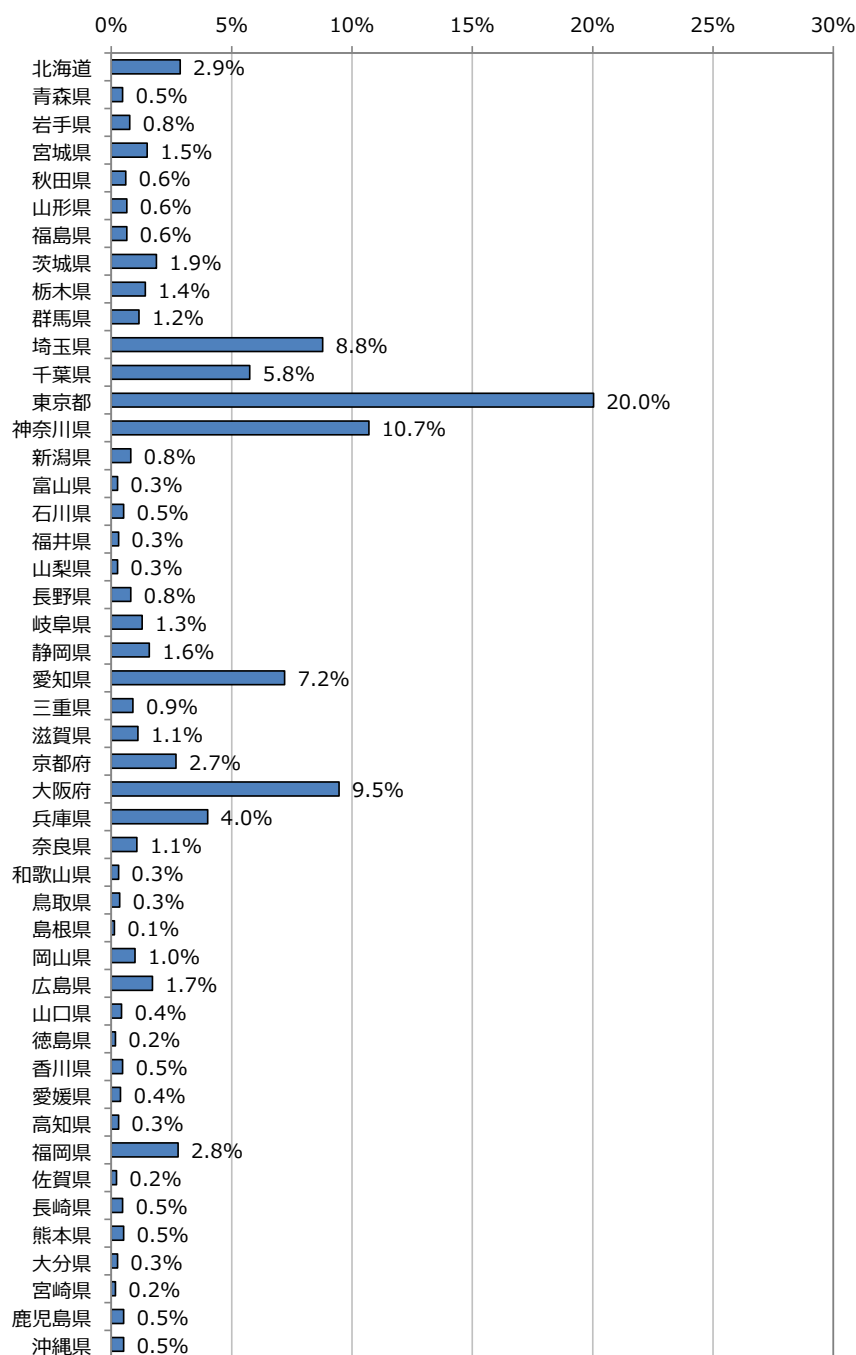
図表 2-11 現在の年齢 (n=2,346)



③現在住んでいる都道府県

現在住んでいる都道府県別には、「東京都」(20.0%)、「神奈川県」(10.7%)、「大阪府」(9.5%)、「埼玉県」(8.8%)、「愛知県」(7.2%)、「千葉県」(5.8%)、「兵庫県」(4.0%)の順で多い(スクリーニング調査の回答者における比率は、「東京都」(12.2%)、「大阪府」(7.2%)、「神奈川県」(6.8%)、「愛知県」(6.5%)、「埼玉県」(6.1%)、「千葉県」(5.1%)、「兵庫県」(4.5%)の順で多い)。

図表 2-12 現在住んでいる都道府県 (n=2,346)

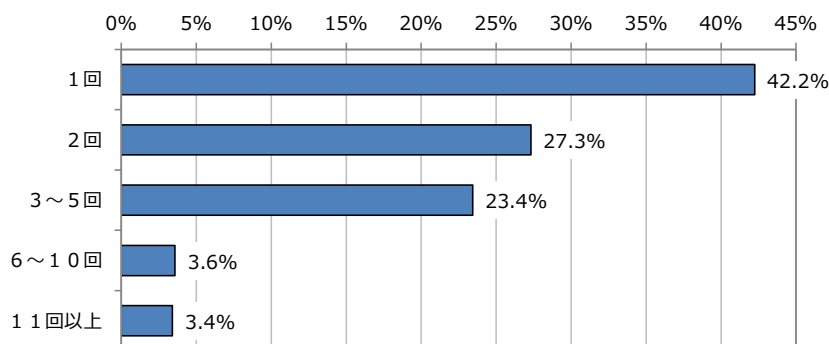


(2)痴漢被害経験について

①痴漢被害にあった回数

「1回」(42.2%)が最も多く、次いで、「2回」(27.3%)、「3～5回」(23.4%)となっている。中には「11回以上」被害にあったとの回答もみられる。

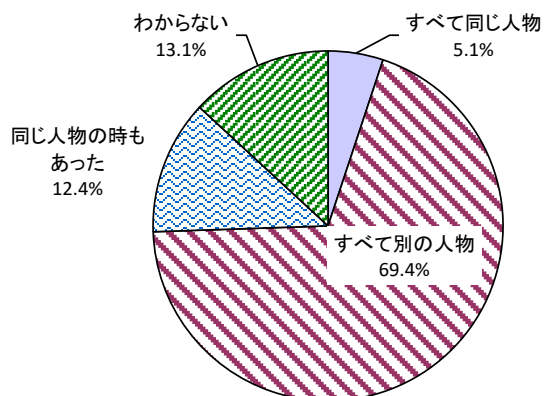
図表 2-13 痴漢被害回数 (n=2,346)



②加害者は同じ人物か、別の人物か(2回以上痴漢の被害にあった場合)

2回以上痴漢被害にあったことのある回答者に加害者についてたずねた。「すべて別の人物」(69.4%)が最も多く、次いで「わからない」(13.1%)、「同じ人物の時もあった」(12.4%)となっている。

図表 2-14 加害者は同じ人物か、別の人物か (n=1,355)

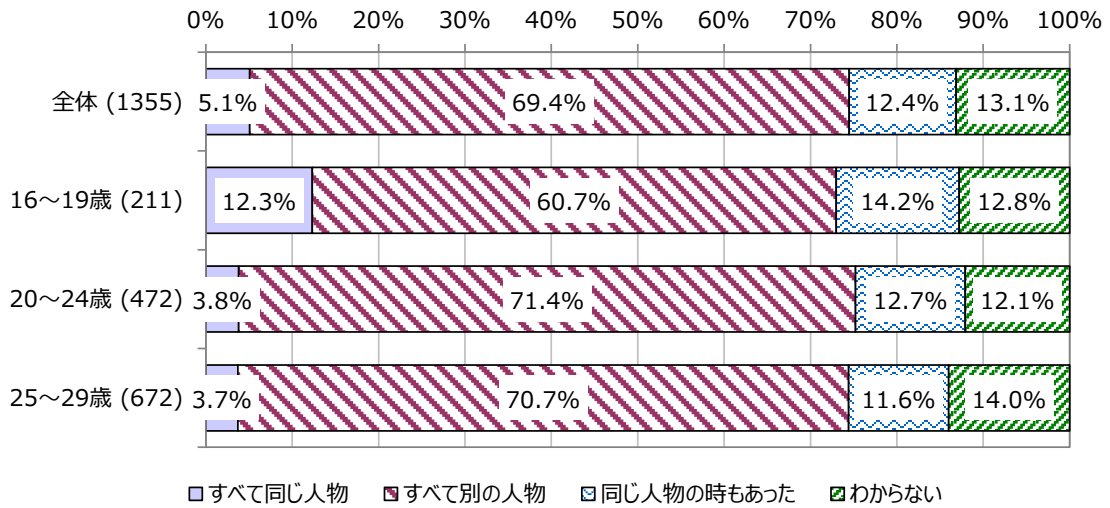


【属性別傾向】

年齢層別

16～19歳では、「すべて同じ人物」（12.3%）が全体より多い。

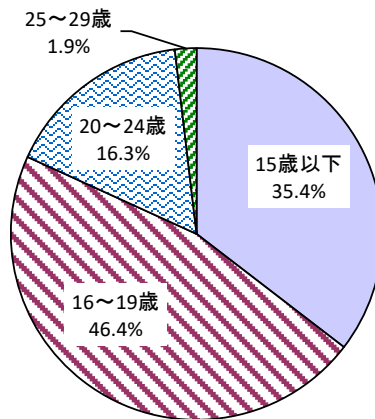
図表 2-15 年齢層別、加害者は同じ人物か、別の人物か



③はじめて痴漢被害を受けたときの年齢

「16～19歳」の割合が最も多く（46.4%）、次いで「15歳以下」（35.4%）となっている。

図表 2-16 はじめて痴漢被害を受けたときの年齢 (n=2,346)



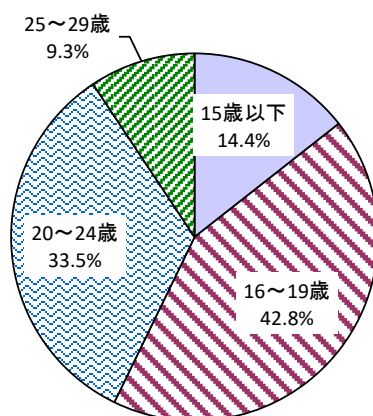
(3)直近で受けた痴漢被害について

直近で受けた痴漢被害についてたずねた。

①被害にあったときの年齢

「16～19歳」の割合が最も多く(42.8%)、次いで「20～24歳」(33.5%)、「15歳以下」(14.4%)となっている。

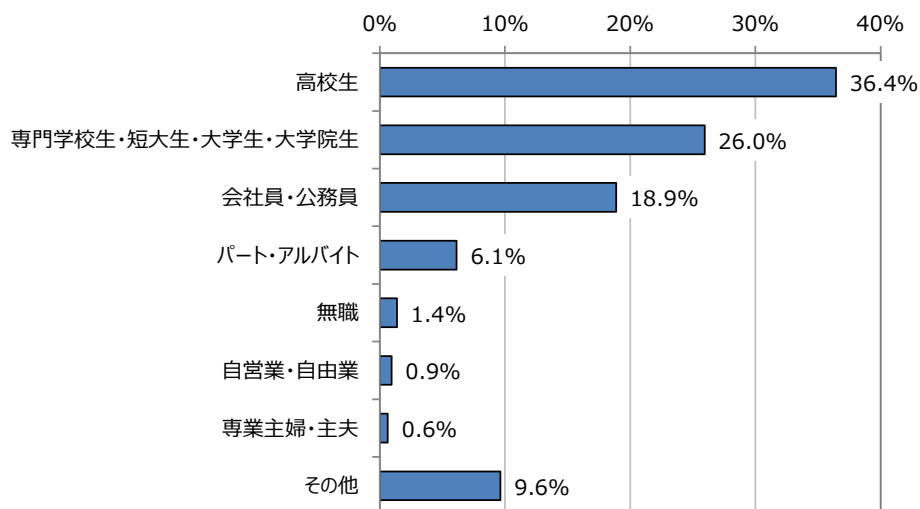
図表 2-17 被害にあったときの年齢 (n=2,346)



②被害にあったときの職業・学校

「高校生」(36.4%)が最も多く、次いで「専門学校生・短大生・大学生・大学院生」(26.0%)「会社員・公務員」(18.9%)となっている。「その他」には、幼稚園・小学生・中学生等が挙げられている。

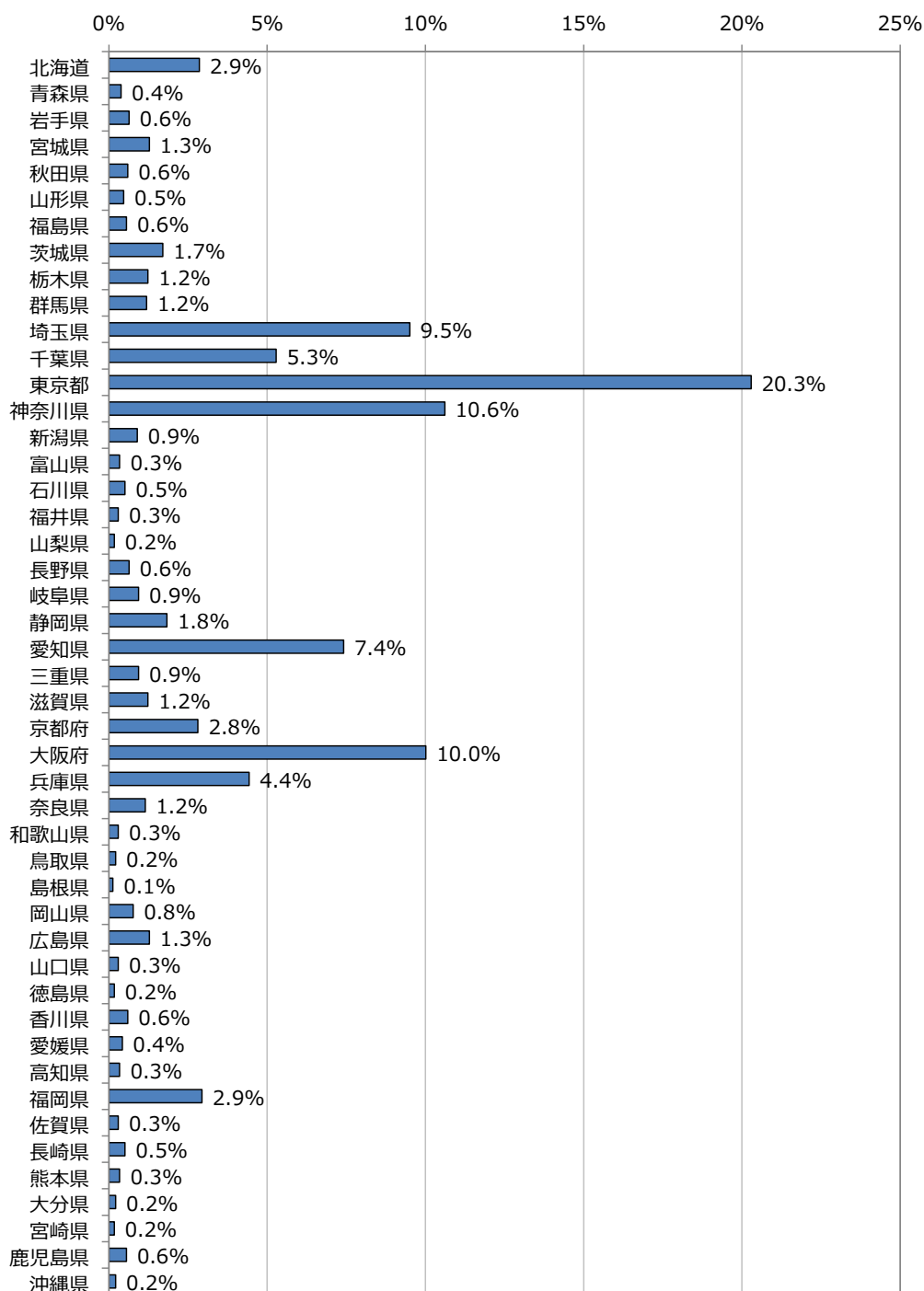
図表 2-18 被害にあったときの職業・学校 (n=2,346)



③被害にあったときに住んでいた都道府県・地域区分

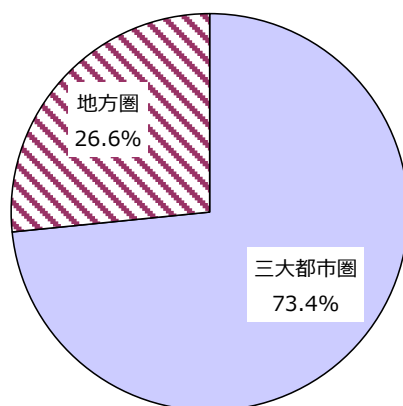
「東京都」(20.3%)、「神奈川県」(10.6%)、「大阪府」(10.0%)、「埼玉県」(9.5%)、「愛知県」(7.4%)、「千葉県」(5.3%)、「兵庫県」(4.4%)の順で多い(現在住んでいる都道府県別には、「東京都」(20.0%)、「神奈川県」(10.7%)、「大阪府」(9.5%)、「埼玉県」(8.8%)、「愛知県」(7.2%)、「千葉県」(5.8%)、「兵庫県」(4.0%)の順で多い)。

図表 2-19 被害にあったときに住んでいた都道府県 (n=2,346)



被害にあったときに住んでいた都道府県を「三大都市圏」と「地方圏」に分類し、集計したところ、「三大都市圏」が73.4%、地方圏が26.6%となっている。

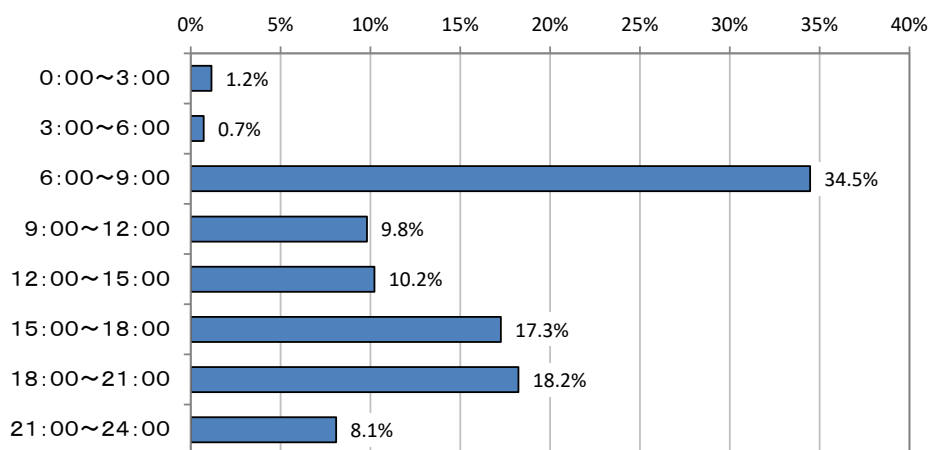
図表 2-20 被害にあったときに住んでいた地域区分 (n=2,307)



④被害にあった時間帯

「6:00~9:00」(34.5%)が最も多く、次いで「18:00~21:00」(18.2%)、「15:00~18:00」(17.3%)が多くなっている。

図表 2-21 被害にあった時間帯 (n=2,346)

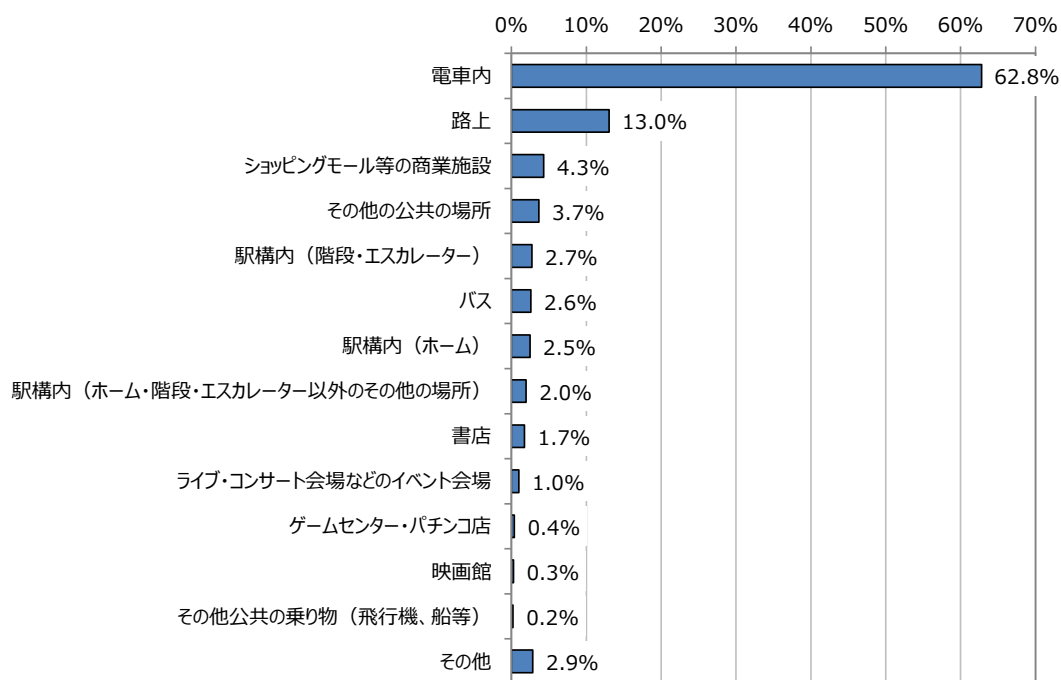


⑤被害にあった場所

「電車内」(62.8%)が最も多く、次いで「路上」(13.0%)となっている。電車関連(「電車内」及び「駅構内」)をあわせると70.0%となっている。

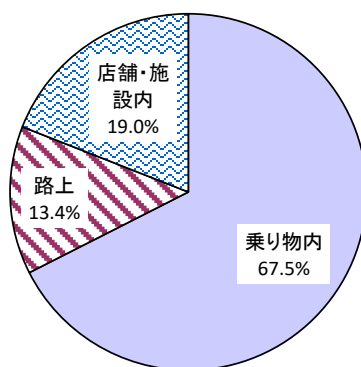
「その他」には、アルバイト先、学校、塾等が挙げられている。

図表 2-22 被害にあった場所 (n=2,346)



被害にあった場所を「その他」を除き、「乗り物内」、「路上」、「店舗・施設内」に分類し、集計したところ、「乗り物内」が67.5%、「路上」が13.4%、「店舗・施設内」が19.0%となった。

図表 2-23 被害にあった場所の分類 (n=2,279)

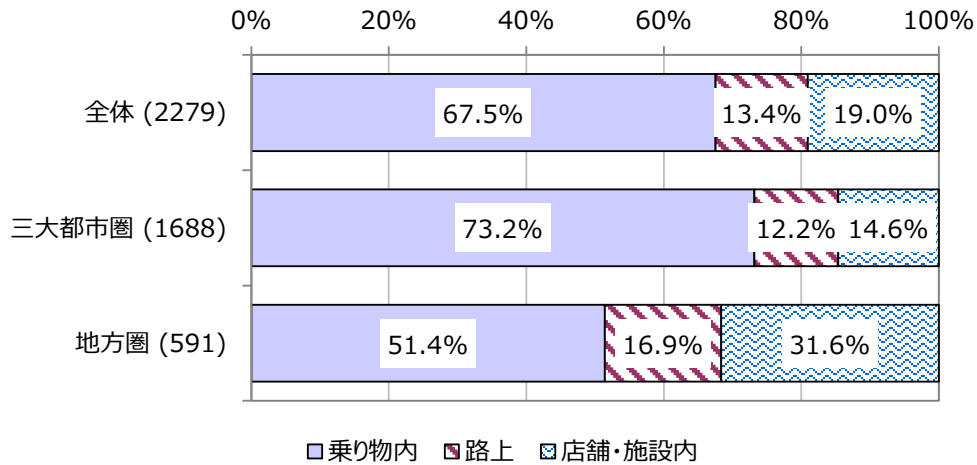


【属性別傾向】

地域区分別

どちらの地域区分でも「乗り物内」が最も多いが、「三大都市圏」は「地方圏」に比べ、他の場所（「路上」「店舗・施設内」）との差が大きい

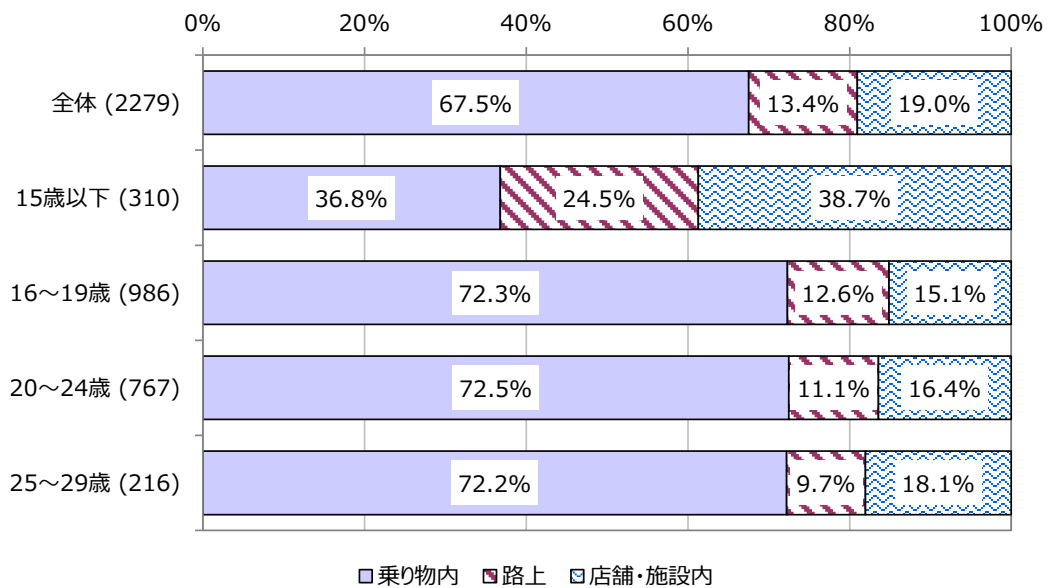
図表 2-24 地域区分別、被害にあった場所の分類



年齢層別

被害時 15 歳以下では、全体より「店舗・施設内」(38.7%)、「路上」(24.5%)が多く、「乗り物内」(36.8%)が少ない。

図表 2-25 年齢層別、被害にあった場所の分類

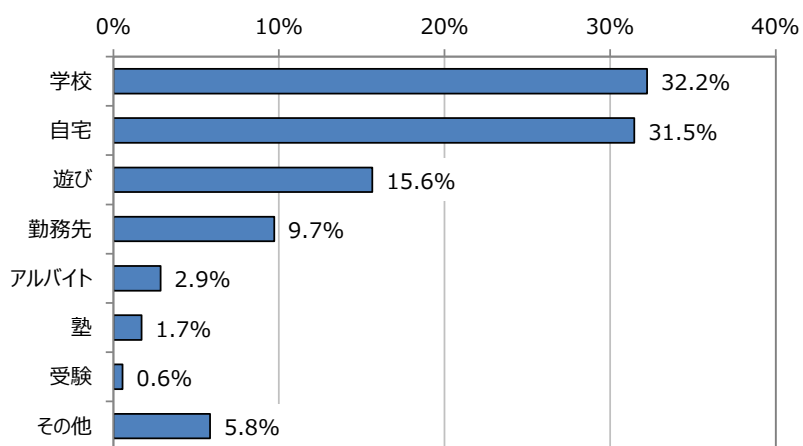


⑥被害にあった際、向かっていた場所

「学校」(32.2%)と「自宅」(31.5%)が多く、次いで「遊び」(15.6%)、「勤務先」(9.7%)となっている。

「その他」には、買い物、ライブ会場等が挙げられている。

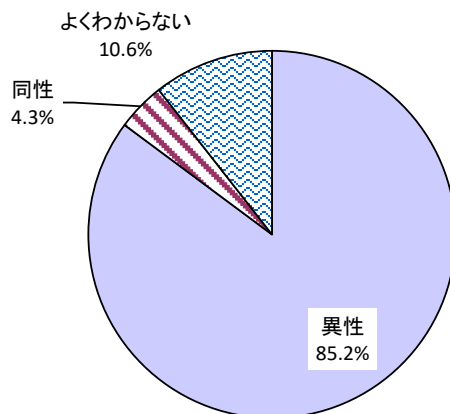
図表 2-26 被害にあった際、向かっていた場所 (n=2,346)



⑦加害者の性別

「異性」(85.2%)、「同性」(4.3%)、「よくわからない」(10.6%)となっている。

図表 2-27 加害者の性別 (n=2,346)

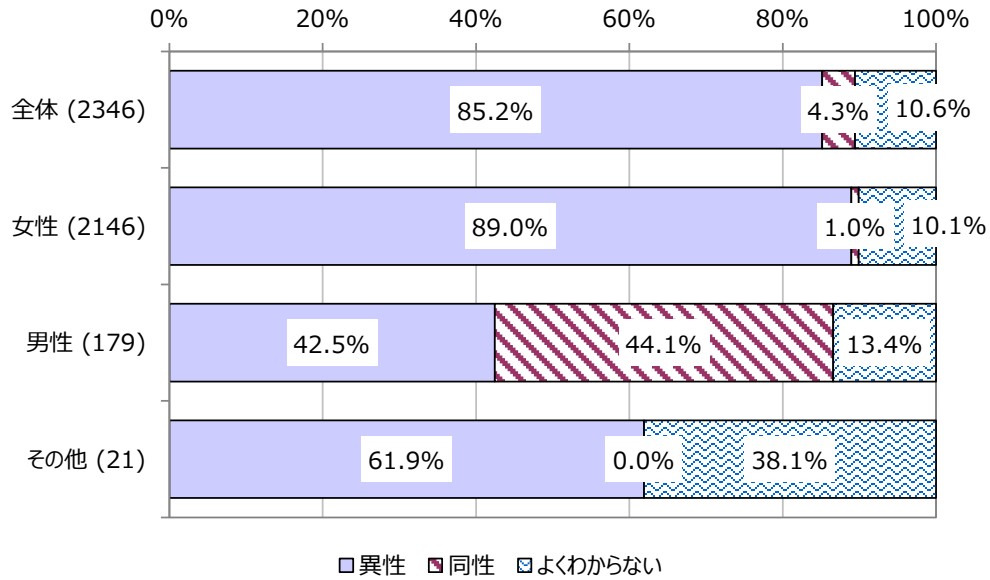


【属性別傾向】

回答者性別

男性では「異性」(42.5%)、「同性」(44.1%)となっている。

図表 2-28 回答者性別、加害者の性別

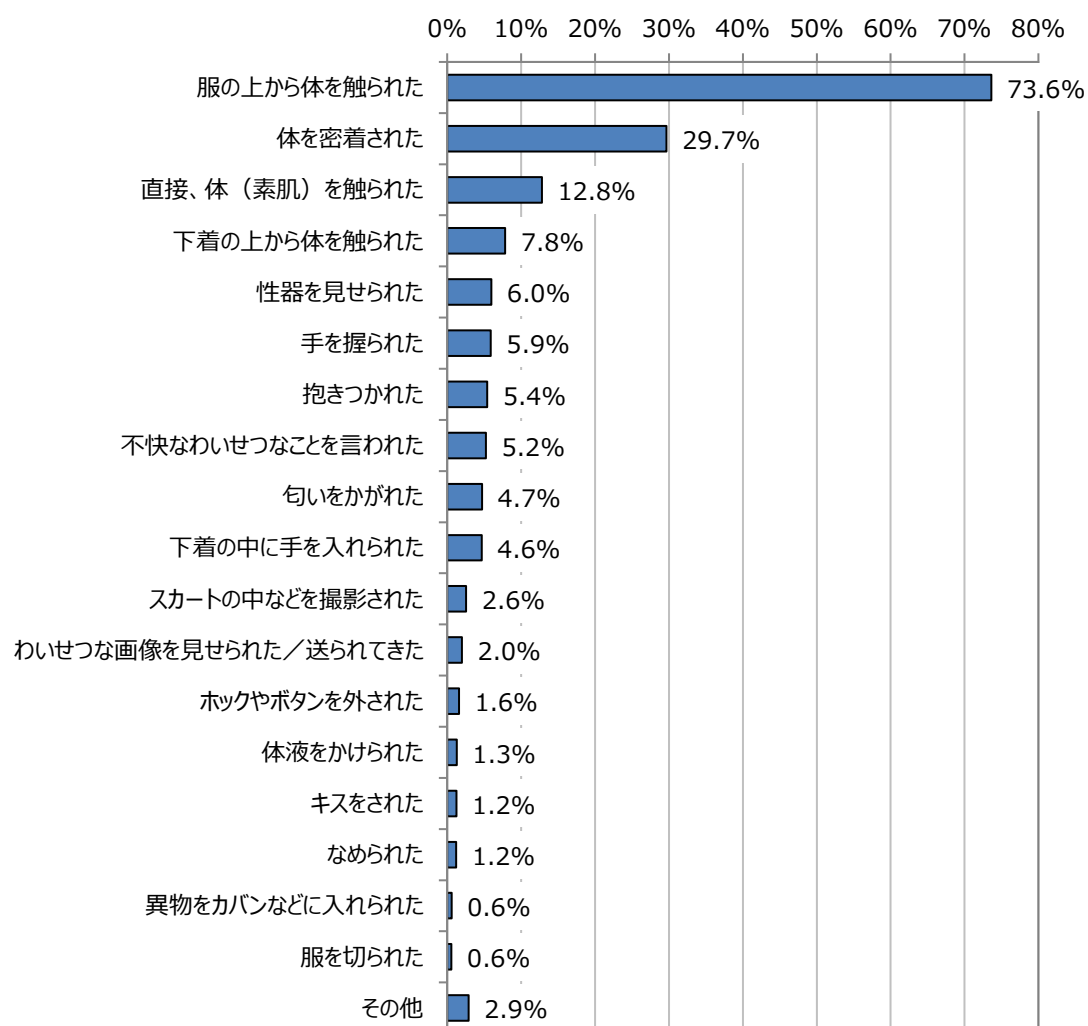


⑧被害態様

「服の上から体を触られた」(73.6%)が最も多く、次いで「体を密着された」(29.7%)、「直接、体(素肌)を触られた」(12.8%)、「下着の上から体を触られた」(7.8%)、「性器を見せられた」(6.0%)、「手を握られた」(5.9%)、「抱きつかれた」(5.4%)、「不快なわいせつなことを言われた」(5.2%)等となっている。

「その他」には、性器を押し付けられた、わざとぶつかってきた等が挙げられている。

図表 2-29 被害態様（複数回答）（n=2,346）

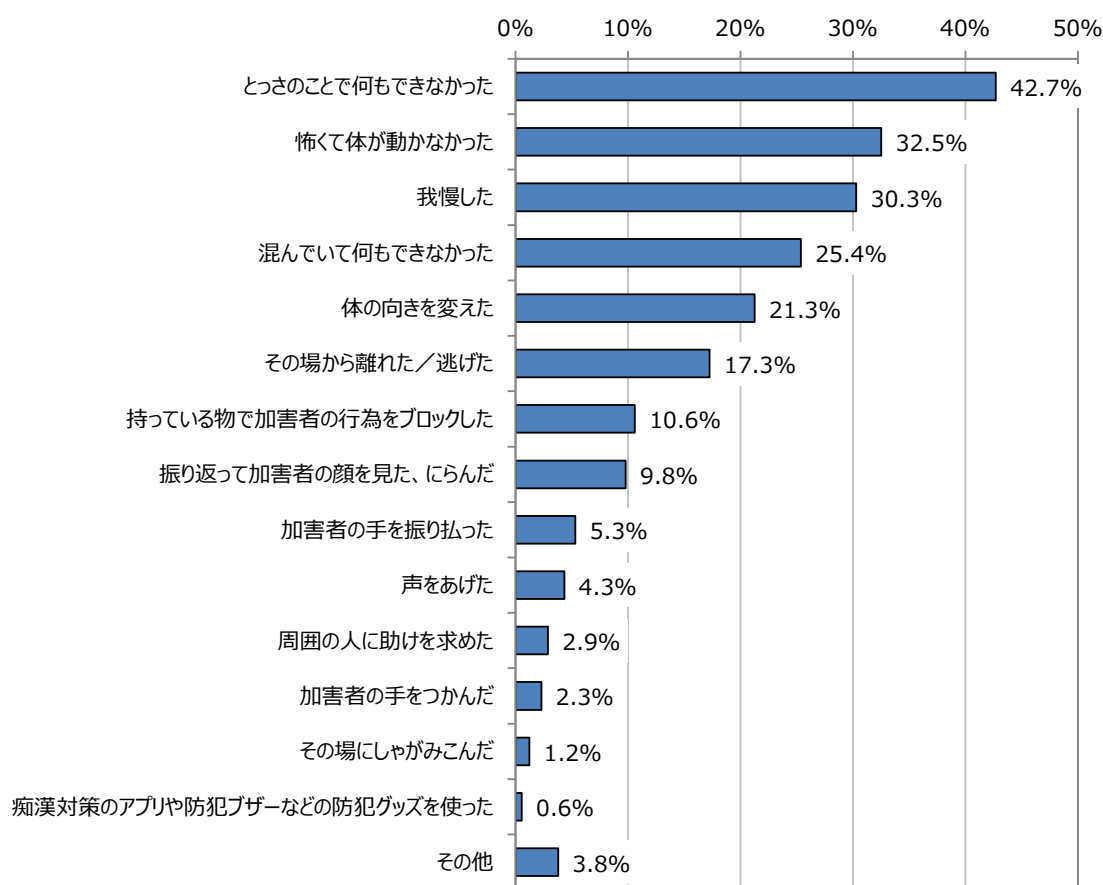


⑨被害にあったときに取った対応

「とっさのことで何もできなかった」(42.7%)が最も多く、次いで「怖くて体が動かなかった」(32.5%)、「我慢した」(30.3%)、「混んでいて何もできなかった」(25.4%)、「体の向きを変えた」(21.3%)、「その場から離れた／逃げた」(17.3%)、「持っているもので加害者の行為をブロックした」(10.6%)等となっている。

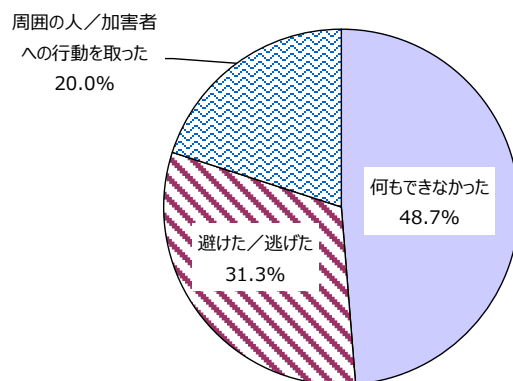
「その他」には、加害者の足を踏んだ、電車から降りた等が挙げられている。

図表 2-30 被害にあったときに取った対応（複数回答）（n=2,346）



被害にあったときの対応を「その他」を除き、「何もできなかった」、「避けた／逃げた」、「周囲の人／加害者への行動を取った」に分類した。集計の結果、「何もできなかった」が 48.7%、「避けた／逃げた」が 31.3%、「周囲の人／加害者への行動を取った」が 20.0%となった。

図表 2-31 被害にあったときに取った対応の分類（n=2,307）

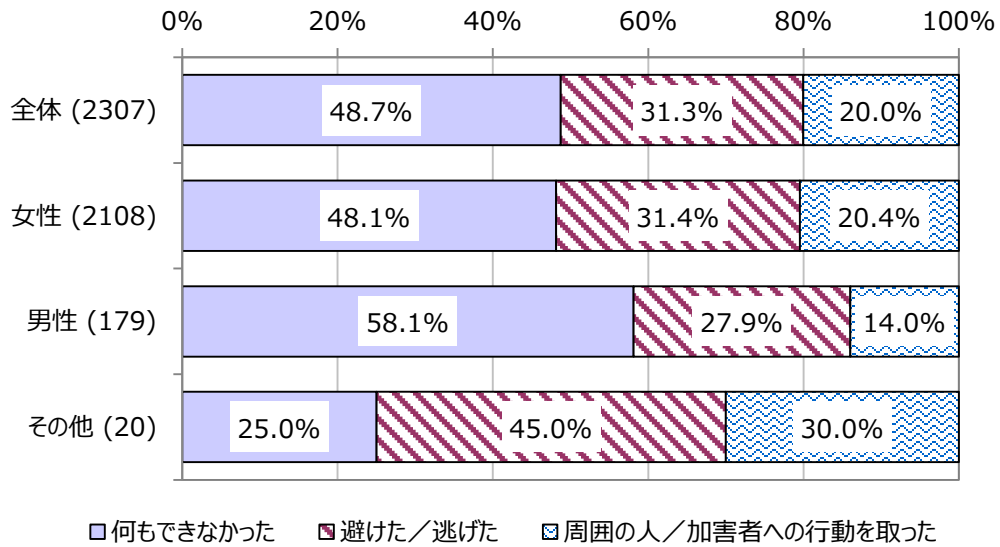


【属性別傾向】

性別

男性では「何もできなかった」(58.1%)が全体より多い。

図表 2-32 回答者性別、被害にあったときに取った対応

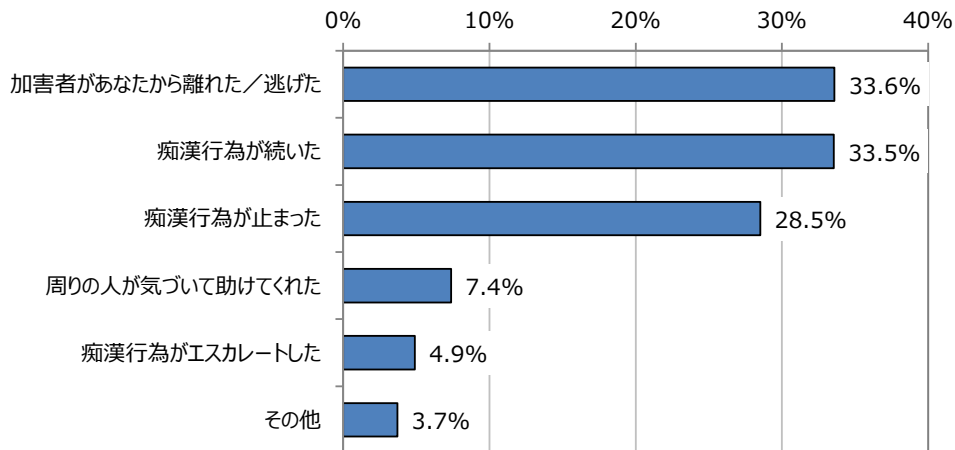


⑩上記の対応をした、あるいは対応できなかった結果について

「加害者があなたから離れた/逃げた」(33.6%)、「痴漢行為が続いた」(33.5%)、「痴漢行為が止まった」(28.5%)が多くなっている。

「その他」には、自分から離れたのでわからない等が挙げられている。

**図表 2-33 上記の対応をした、あるいは対応できなかった結果 (複数回答)
(n=2,346)**



被害にあったときに取った対応の分類別に、対応した、あるいは対応できなかった結果をみると、「何もできなかった」方では「痴漢行為が続いた」が多く、「痴漢行為が止まった」が少なくなっている一方で、「避けた／逃げた」方では「痴漢行為が止まった」が多く、「周囲の人／加害者への行動を取った」方では、「加害者が離れた／逃げた」、「痴漢行為が止まった」、「周囲の人が気づいて助けてくれた」が多く、「痴漢行為が続いた」が少なくなっている。

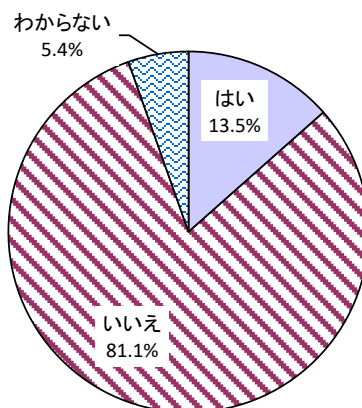
図表 2-34 被害にあったときに取った対応の分類別、対応結果（複数回答）

(n=2,307)	痴漢行為が続いた	痴漢行為がエスカレートした	痴漢行為が止まった	周囲の人が気づいて助けてくれた	加害者があなたから離れた／逃げた	その他
何もできなかった(1,124)	474 (42.2%)	54 (4.8%)	198 (17.6%)	65 (5.8%)	374 (33.3%)	40 (3.6%)
避けた／逃げた(721)	228 (31.6%)	37 (5.1%)	268 (37.2%)	38 (5.3%)	208 (28.8%)	29 (4.0%)
周囲の人／加害者への行動を取った(462)	81 (17.5%)	24 (5.2%)	185 (40.0%)	65 (14.1%)	198 (42.9%)	12 (2.6%)

⑪周囲の人に助けを求めたかどうか

周囲の人に助けを求めたかについては、「いいえ」が81.1%、「はい」が13.5%、「わからない」が5.4%となっている。

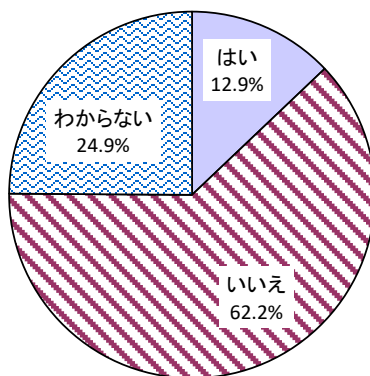
図表 2-35 周囲の人に助けを求めたかどうか (n=2,346)



⑫周囲の人が被害に気づいたかどうか

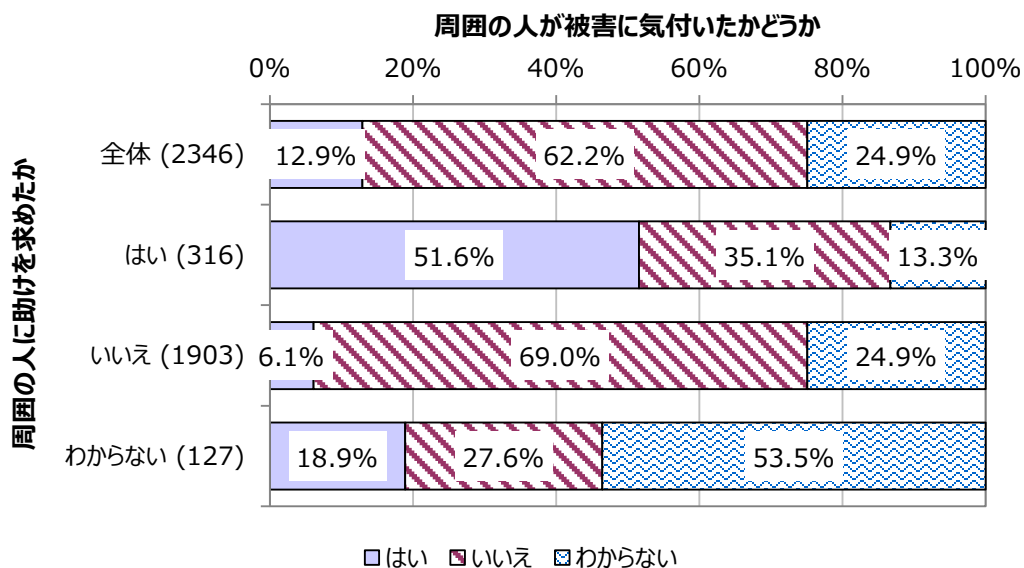
周囲の人が被害に気が付いたかどうかについては「いいえ」が 62.2%、「わからない」が 24.9%、「はい」が 12.9%となっている。

図表 2-36 周囲の人が被害に気づいたかどうか (n=2,346)



周囲の人に助けを求めたかどうかで「はい」と回答した方においては、周囲の人が気づいたかどうかにも「はい」と回答する割合が高くなっている。

図表 2-37 周囲の人に助けを求めたかどうか別、周囲の人が被害に気づいたかどうか



⑬周囲の人が取った対応

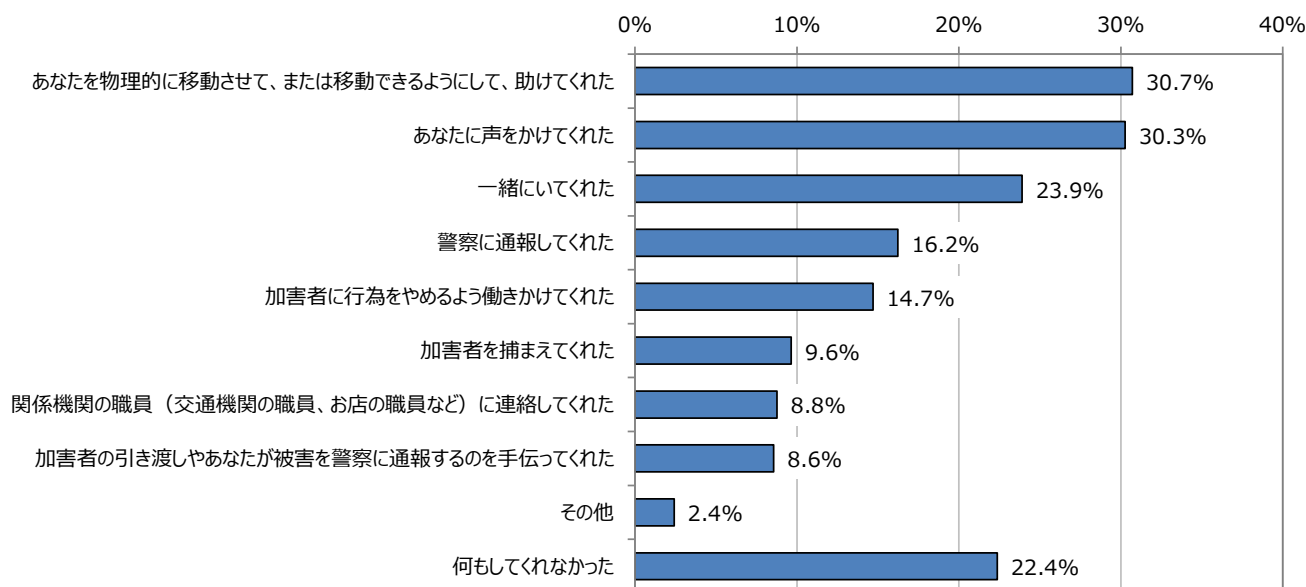
「周囲の人に助けを求めた」又は「周囲の人が気づいた」と答えた方に、周囲の人がどのように対応してくれかをたずねた。

「あなたを物理的に移動させて、又は移動できるようにして、助けてくれた」(30.7%)と「あなたに声をかけてくれた」(30.3%)が同程度で多く、次いで「一緒にいてくれた」(23.9%)が多い。

通報や連絡(「警察に通報してくれた」(16.2%)、「関係機関の職員に連絡してくれた」(8.8%)、「加害者の引き渡しやあなたが被害を警察に通報するのを手伝ってくれた」(8.6%)、加害者への介入(「加害者に行為をやめるよう働きかけてくれた」(14.7%)、「加害者を捕まえてくれた」(9.6%))をしてくれたとの回答も一定程度みられる。

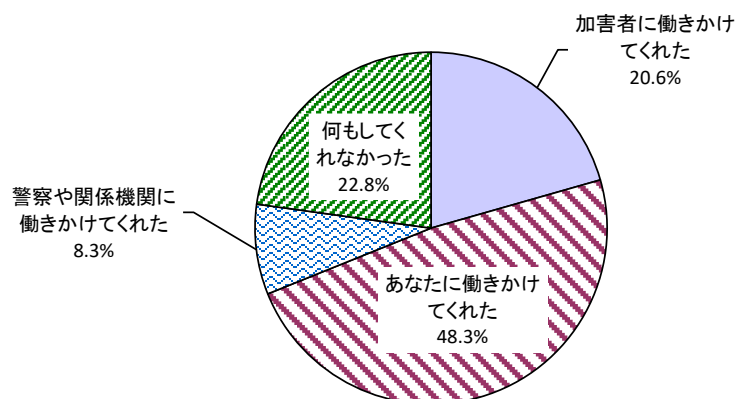
一方で、「何もしてくれなかった」(22.4%)も多い。

図表 2-38 周囲の人が取った対応(複数回答) (n=456)



周囲の人が取った行動を「その他」を除き「加害者に働きかけてくれた」、「あなたに働きかけてくれた」、「警察や関係機関に働きかけてくれた」、「何もしてくれなかった」に分類した。集計の結果、「加害者に働きかけてくれた」が20.6%、「あなたに働きかけてくれた」が48.3%、が8.3%、「何もしてくれなかった」が22.8%となった。

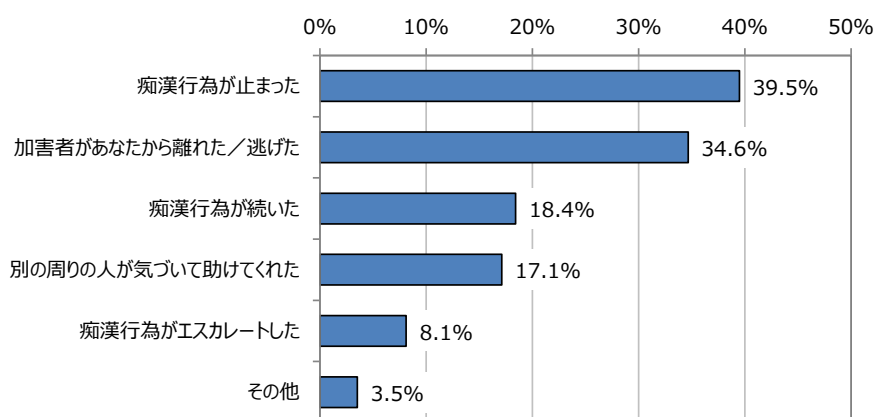
図表 2-39 周囲の人が取った対応の分類 (n=447)



⑭周囲の人が前問の対応をした、あるいは対応できなかった結果

「痴漢行為が止まった」(39.5%)、「加害者があなたから離れた／逃げた」(34.6%)が多くなっている。

図表 2-40 周囲の人が前問の対応をした、あるいは対応できなかった結果 (複数回答) (n=456)



周囲の人が取った対応の分類別に、周囲の人が対応した、あるいは対応できなかった結果をみると、周囲の人がなんからの働きかけをしてくれた場合には、周囲の人が「何もしてくれなかった」場合に比べて、「痴漢行為が続いた」が少なく、「痴漢行為が止まった」が多い。中でも「加害者に働きかけてくれた」場合には、「痴漢行為が止まった」や「別の周りの人が気づいて助けてくれた」の回答割合が最も高くなる。

図表 2-41 周囲の人が取った対応の分類別、対応結果（複数回答）

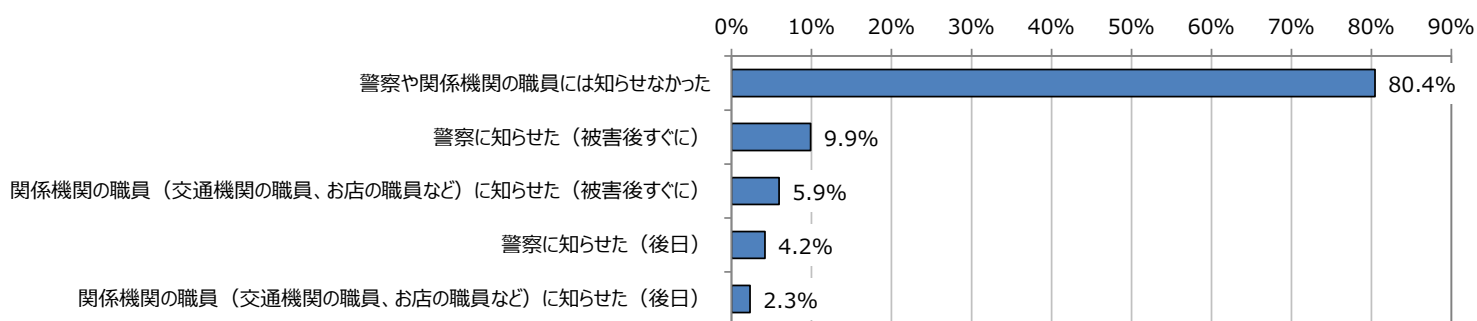
(n=447)	痴漢行為が続いた	痴漢行為がエスカレートした	痴漢行為が止まった	別の周りの人が気づいて助けてくれた	加害者があなたから離れた／逃げた	その他
加害者に働きかけてくれた(92)	13 (14.1%)	10 (10.9%)	50 (54.3%)	33 (35.9%)	28 (30.4%)	2 (2.2%)
あなたに働きかけてくれた(216)	29 (13.4%)	17 (7.9%)	87 (40.3%)	35 (16.2%)	79 (36.6%)	7 (3.2%)
警察や関係機関に働きかけてくれた(37)	3 (8.1%)	0 (0.0%)	17 (45.9%)	7 (18.9%)	15 (40.5%)	1 (2.7%)
何もしてくれなかった(102)	38 (37.3%)	10 (9.8%)	23 (22.5%)	3 (2.9%)	34 (33.3%)	2 (2.0%)

⑮警察や関係機関の職員（交通機関の職員、お店の職員など）への連絡の有無（回答者以外の人
がした場合も含む）

「警察や関係機関の職員には知らせなかった」（80.4%）が最多となっている。

連絡した回答者では、「警察に知らせた（被害後すぐに）」が9.9%、「関係機関の職員に知らせた（被害後すぐに）」が5.9%となっている。

図表 2-42 警察や関係機関の職員への連絡の有無（複数回答）（n=2,346）



【属性別傾向】

性別

男性では「警察や関係機関の職員には知らせなかった」（64.2%）が全体より少ない。

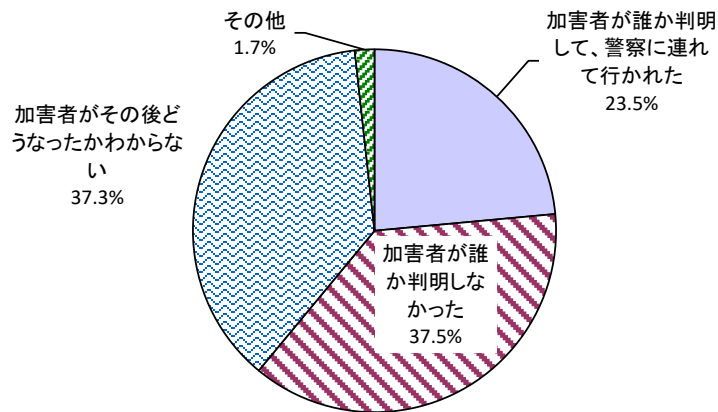
図表 2-4-3 回答者性別、警察や関係機関職員への連絡の有無（複数回答）

(n=2,346)	警察に知らせた(被害後すぐに)	警察に知らせた(後日)	関係機関の職員(交通機関の職員、お店の職員など)に知らせた(被害後すぐに)	関係機関の職員(交通機関の職員、お店の職員など)に知らせた(後日)	警察や関係機関の職員には知らせなかった
女性(2,146)	209 (9.7%)	78 (3.6%)	115 (5.4%)	38 (1.8%)	1757 (81.9%)
男性(179)	22 (12.3%)	19 (10.6%)	24 (13.4%)	12 (6.7%)	115 (64.2%)
その他(21)	1 (4.8%)	1 (4.8%)	0 (0.0%)	4 (19.0%)	15 (71.4%)

⑩加害者のその後

警察や関係機関の職員への連絡をした方に対し、加害者はその後どうなったか知っているかをたずねたところ、「加害者が誰か判明して、警察に連れて行かれた」は23.5%となっている。

図表 2-4-4 加害者のその後 (n=459)



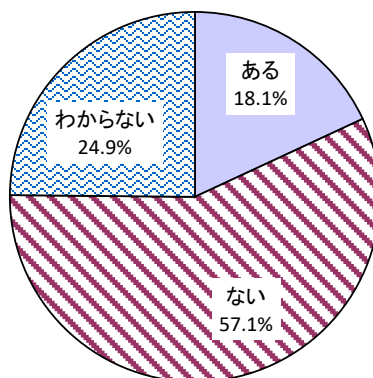
(4) これまでに受けた痴漢被害について

これまでに受けたことのある痴漢被害（直近で受けた痴漢被害を含む）についてたずねた。

① 周囲の人があなたの被害に気づいたことがある

周囲の人が被害に気づいたことが「ある」との回答は18.1%となった。

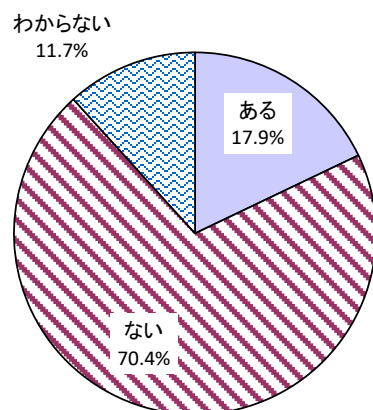
図表 2-45 周囲の人があなたの被害に気づいたことがある (n=2,346)



② 周囲の人が何らかの対応してくれたことがある

周囲の人が何らかの対応してくれたことが「ある」との回答は17.9%であった。

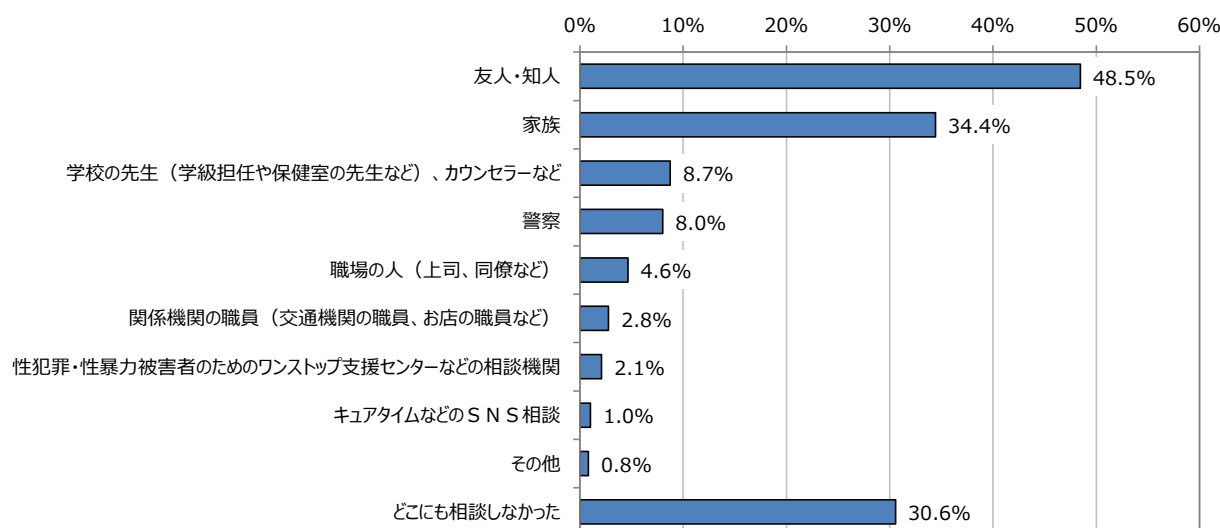
図表 2-46 周囲の人が何らかの対応してくれたことがある (n=2,346)



③相談の有無

相談したことがある回答者の相談相手としては、「友人・知人」（48.5%）が最も多く、次いで「家族」（34.4%）、「学校の先生、カウンセラーなど」（8.7%）、「警察」（8.0%）、「職場の人」（4.6%）となっている。「どこにも相談しなかった」との回答は30.6%となっている。

図表 2-47 相談の有無（複数回答）（n=2,346）



④相談相手がしてくれたこと

相談した相手別に、何をしてくれたかをたずねたところ、全ての相談相手で「あなたの話を聞いてくれた」が最も多く、次いで「あなたを慰めてくれた／励ましてくれた」が多くなっている。

相談相手別には、友人・知人や家族で「あなたの話を聞いてくれた」と回答した割合が約9割となっている。関係機関の職員は他と比べ「専門機関（警察、相談機関など）に相談してくれた」（12.3%）の割合が高い。

図表 2-48 相談相手がしてくれたこと（複数回答）

	あなたの話を聞いてくれた	あなたが取るべき行動を助言してくれた	あなたを慰めてくれた／励ましてくれた	捜査してくれた	あなたの気持ちを理解してくれなかった	的外れな助言をされた	あなたを非難した	何もしてなかった	専門機関（警察、相談機関など）に相談してくれた	その他
友人・知人 (1,133)	91.4%	21.4%	44.4%	-	3.3%	1.0%	0.2%	1.0%	0.4%	0.7%
家族 (802)	90.1%	32.3%	39.4%	-	3.7%	2.4%	1.6%	2.5%	6.5%	0.4%
学校の先生（学級担任や保健室の先生など）、カウンセラーなど (203)	73.9%	35.5%	42.9%	-	6.4%	2.5%	3.4%	4.9%	7.9%	0.5%
職場の人（上司、同僚など） (107)	79.4%	27.1%	34.6%	-	2.8%	4.7%	0.0%	1.9%	1.9%	0.0%
性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターなどの相談機関 (45)	42.2%	35.6%	40.0%	-	6.7%	2.2%	0.0%	0.0%	2.2%	2.2%
キュアタイムなどのSNS相談 (21)	66.7%	33.3%	28.6%	-	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
警察 (188)	71.3%	32.4%	26.1%	51.6%	6.9%	3.2%	1.1%	4.3%	1.1%	0.5%
関係機関の職員（交通機関の職員、お店の職員など） (65)	67.7%	30.8%	23.1%	15.4%	9.2%	4.6%	0.0%	9.2%	12.3%	3.1%
その他 (19)	73.7%	26.3%	42.1%	-	26.3%	10.5%	0.0%	10.5%	0.0%	10.5%

【属性別傾向】

性別

男性では、相談相手が「あなたの話を聞いてくれた」が全体より少ない（下記は「知人・友人」の場合のみを掲載。他の相談相手も同様の傾向にある）。

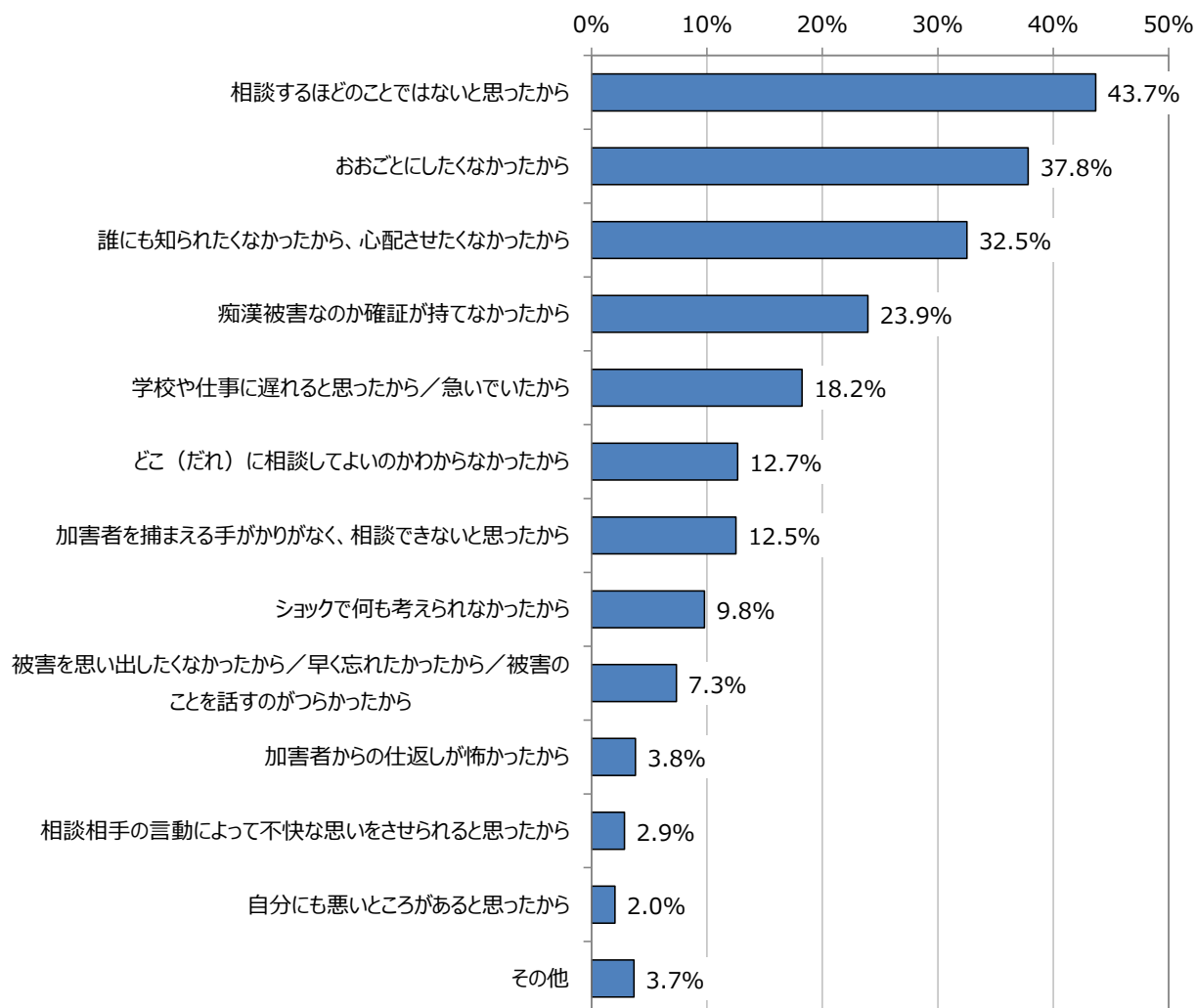
図表 2-49 回答者性別、相談相手がしてくれたこと【知人・友人】（複数回答）

(n=1,133)	あなたの話を聞いてくれた	あなたが取るべき行動を助言してくれた	あなたを慰めてくれた／励ましてくれた	あなたの気持ちを理解してくれなかった	的外れな助言をされた	あなたを非難した	何もしてくれなかった	専門機関（警察、相談機関など）に相談してくれた	その他
女性 (1,053)	975 (92.6%)	224 (21.3%)	474 (45.0%)	32 (3.0%)	9 (0.9%)	2 (0.2%)	8 (0.8%)	5 (0.5%)	7 (0.7%)
男性 (70)	53 (75.7%)	18 (25.7%)	26 (37.1%)	5 (7.1%)	2 (2.9%)	0 (0.0%)	2 (2.9%)	0 (0.0%)	1 (1.4%)
その他 (10)	8 (80.0%)	0 (0.0%)	3 (30.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

⑤友人・家族・相談機関など(警察は除く)に相談しなかった理由

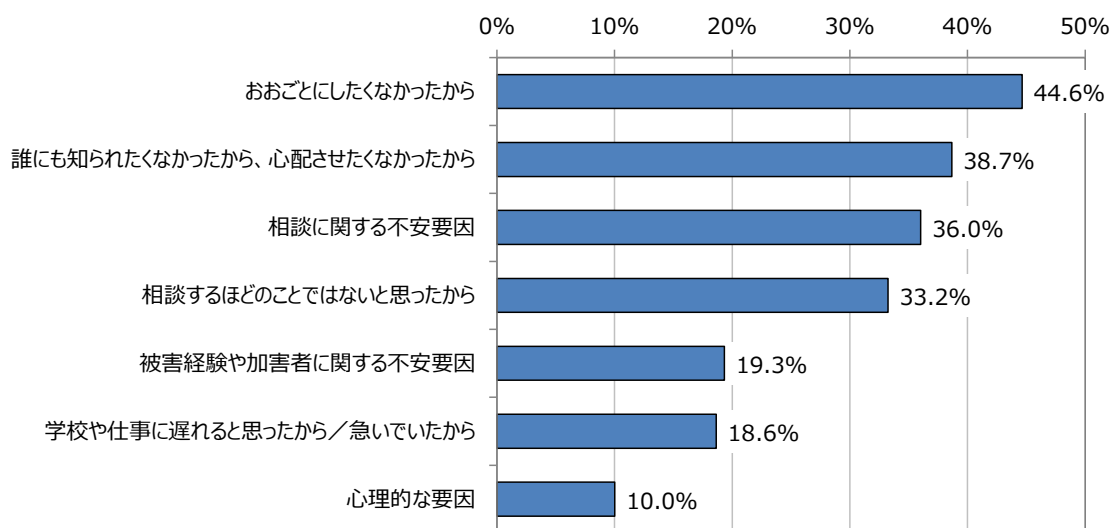
「どこにも相談しなかった」と回答した方、及び、警察以外の友人・家族・相談機関などに相談しなかった方に対し、その理由をたずねたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」(43.7%)が最も多く、次いで「おおごとにしたくなかったから」(37.8%)、「誰にも知られたくなかったから、心配させたくなかったから」(32.5%)、「痴漢被害なのか確証が持てなかったから」(23.9%)、「学校や仕事に遅れると思ったから／急いでいたから」(18.2%)、「どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかったから」(12.7%)、「加害者を捕まえる手がかりがなく、相談できないと思ったから」(12.5%)等となっている。

図表 2-50 友人・家族・相談機関など（警察は除く）に相談しなかった理由（複数回答）
 (n=735)



友人・家族・相談機関など（警察は除く）に相談しなかった理由について、関連する項目をまとめて下図のように分類したところ（「その他」は除外）、「おおごとにしたくなかった」が44.6%、「誰にも知られたくなかったから、心配させたくないから」が38.7%、「相談に関する不安要因」が36.0%、「相談するほどのことではないと思ったから」が33.2%となっている。

図表 2-5 1 友人・家族・相談機関など（警察は除く）に相談しなかった理由（複数回答）
(n=719)



【属性別傾向】

年齢層別

16～19歳では、「誰にも知られたくなかったから、心配させたくないから」(50.4%)、「相談するほどのことではないと思ったから」(46.5%)が全体より多い。

図表 2-5 2 年齢層別、友人・家族・相談機関などに相談しなかった理由の分類
(複数回答)

(n=719)	学校や仕事に遅れると思ったから／急いでいたから	おおごとにしたくなかったから	誰にも知られたくなかったから、心配させたくないから	相談するほどのことではないと思ったから	加害者に関する不安要因	相談に関する不安要因	心理的な要因
16～19歳(129)	24 (18.6%)	60 (46.5%)	65 (50.4%)	60 (46.5%)	22 (17.1%)	52 (40.3%)	13 (10.1%)
20～24歳(214)	35 (16.4%)	96 (44.9%)	69 (32.2%)	63 (29.4%)	37 (17.3%)	78 (36.4%)	24 (11.2%)
25～29歳(376)	75 (19.9%)	165 (43.9%)	144 (38.3%)	116 (30.9%)	80 (21.3%)	129 (34.3%)	35 (9.3%)

性別

男性では、「誰にも知られなくなかったから、心配させなくなかったから」(51.9%)、「学校や仕事に遅れると思ったから／急いでいたから」(28.8%)が全体より多い。

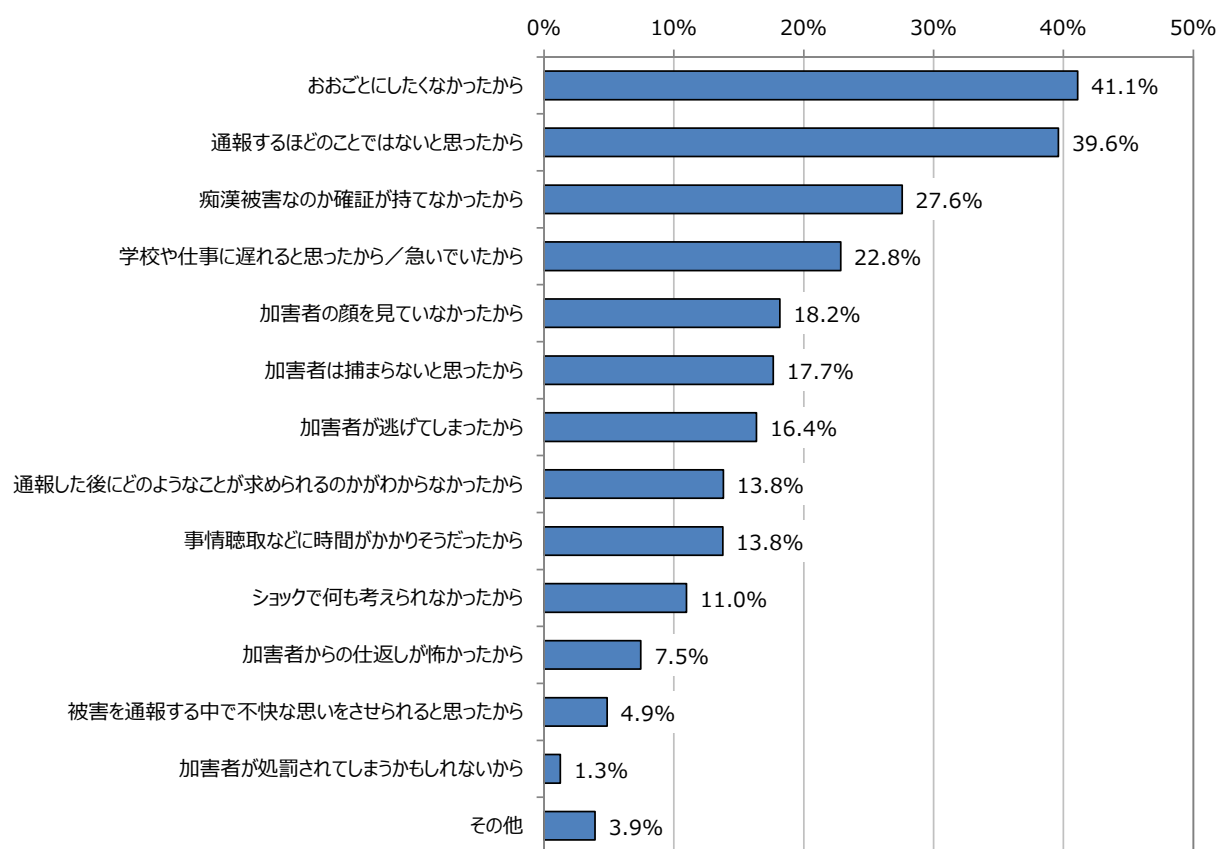
図表 2-53 回答者性別、友人・家族・相談機関などに相談しなかった理由の分類
(複数回答)

(n=719)	学校や仕事に遅れると思ったから／急いでいたから	おおごとにしたくなかったから	誰にも知られなくなかったから、心配させなくなかったから	相談するほどのではないと思ったから	加害者に関する不安要因	相談に関する不安要因	心理的な要因
女性(661)	117 (17.7%)	298 (45.1%)	249 (37.7%)	218 (33.0%)	129 (19.5%)	241 (36.5%)	68 (10.3%)
男性(52)	15 (28.8%)	20 (38.5%)	27 (51.9%)	19 (36.5%)	10 (19.2%)	15 (28.8%)	3 (5.8%)
その他(6)	2 (33.3%)	3 (50.0%)	2 (33.3%)	2 (33.3%)	0 (0.0%)	3 (50.0%)	1 (16.7%)

⑥警察に通報しなかった理由

警察に通報しなかった方に対し、その理由をたずねたところ、「おおごとにしたくなかったから」(41.1%)が最も多く、次いで「通報するほどのことではないと思ったから」(39.6%)、「痴漢被害なのか確証が持てなかったから」(27.6%)、「学校や仕事に遅れると思ったから／急いでいたから」(22.8%)、「加害者の顔を見ていなかったから」(18.2%)、「加害者は捕まらないと思ったから」(17.7%)、「加害者が逃げてしまったから」(16.4%)等となっている。

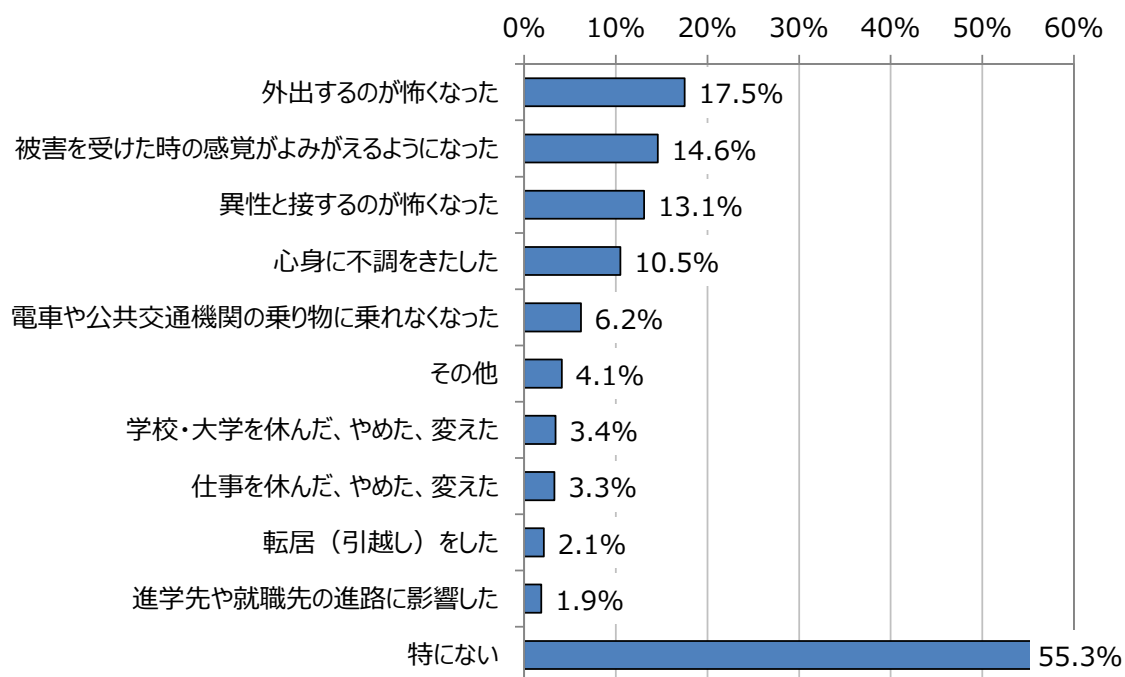
図表 2-54 警察に通報しなかった理由（複数回答）（n=2,158）



⑦被害後に生じた生活への影響

影響は「特にない」(55.3%)が最も多い。影響があるとの回答の中では、「外出するのが怖くなった」(17.5%)、「被害を受けた時の感覚がよみがえるようになった」(14.6%)、「異性と接するのが怖くなった」(13.1%)、「心身に不調をきたした」(10.5%)等となっている。

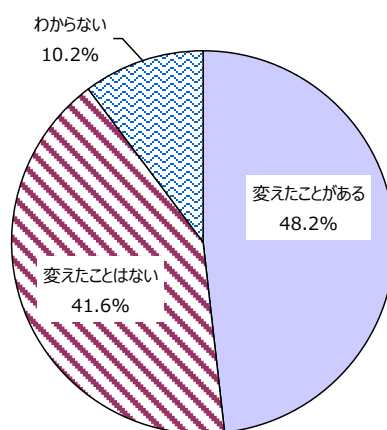
図表 2-55 被害後に生じた生活への影響（複数回答）（n=2,346）



⑧痴漢被害にあった後、被害にあわないために行動を変えたかどうか

行動を「変えたことがある」との回答は48.2%となっている。

図表 2-56 痴漢被害にあった後、被害にあわないために行動を変えたかどうか（n=2,346）

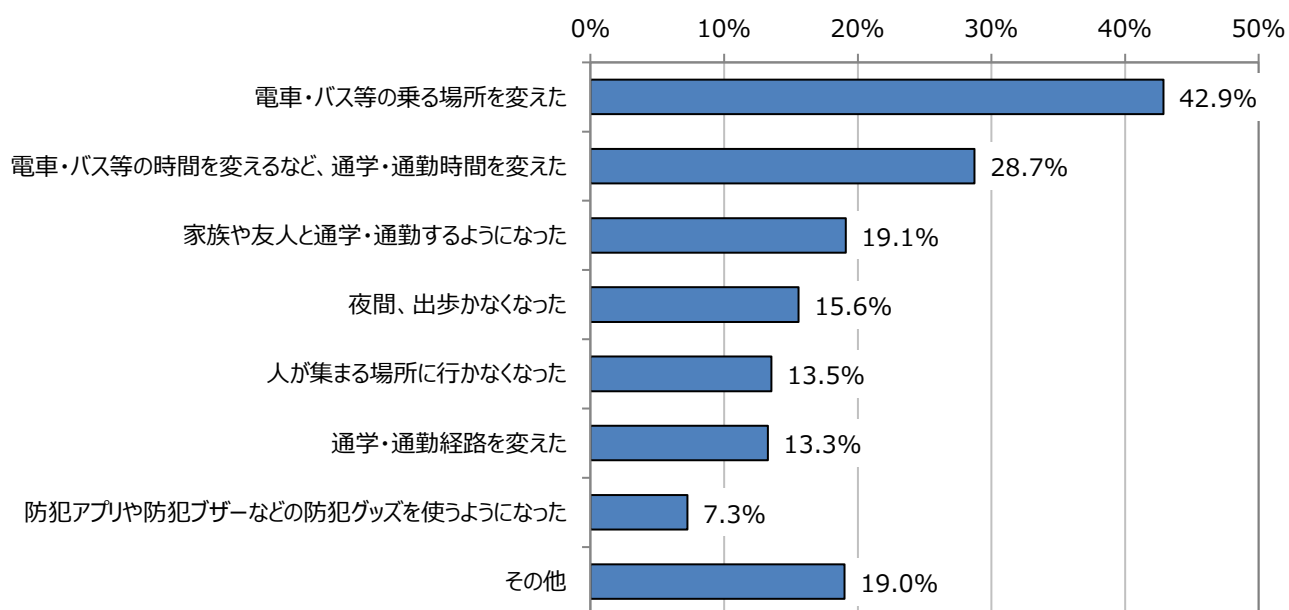


⑨被害にあわないために変えた行動の内容について

「行動を変えたことがある」と回答した方に対し、その内容をたずねたところ、「電車・バス等の乗る場所を変えた」(42.9%)が最も多く、次いで「電車・バス等の時間を変えるなど、通学・通勤時間を変えた」(28.7%)、「家族や友人と通学・通勤をするようになった」(19.1%)、「夜間、出歩かなくなった」(15.6%)等となっている。

「その他」には、服装(見た目)を変えた、女性専用車両に乗るようにした、周りをよく見るようになった、荷物で体を守るようにした等が挙げられている。

図表 2-57 被害にあわないために変えた行動の内容について(複数回答)(n=1,131)



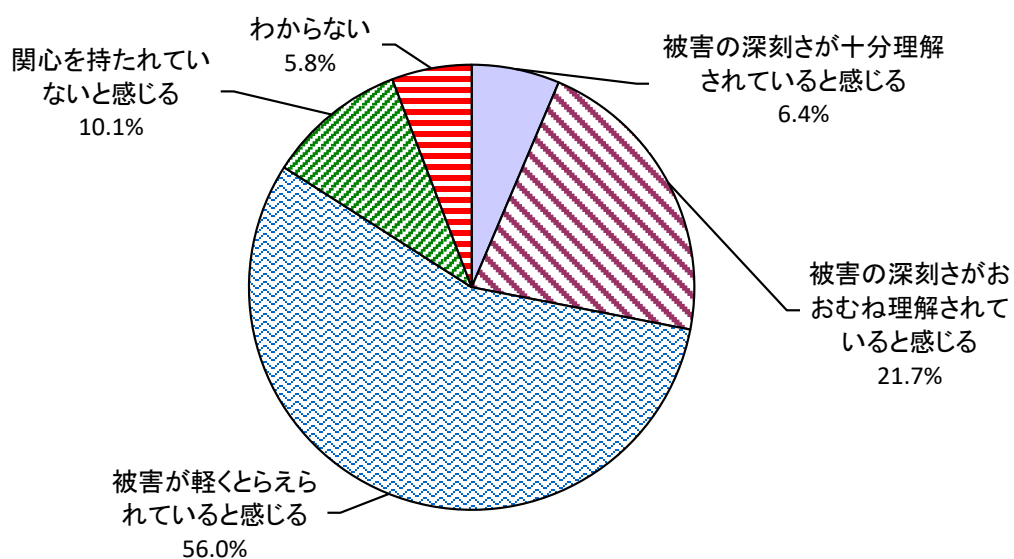
(5)痴漢被害に対する社会意識について

①痴漢被害について、世の中でどのように考えられていると感じるか

「被害の深刻さが十分理解されていると感じる」(6.4%)と「被害の深刻さがおおむね理解されていると感じる」(21.7%)の合計は28.1%である。一方で、「被害が軽くとらえられていると感じる」(56.0%)と「関心がもたれていないと感じる」(10.1%)の合計は66.1%となっている。

図表 2-58 痴漢被害について、世の中でどのように考えられていると感じるか

(n=2,346)



2) アンケート対象者(痴漢被害者)からの自由意見

アンケート(本調査)の最後に、「アンケートで答えきれなかった被害のこと、今後の取組で期待することなどあれば自由にお書き下さい」との自由記述設問を設けたところ、多くの意見をいただいた。(1) アンケートで答えきれなかった被害のこと、(2) 今後の取組で期待することに分類の上、主な意見を抜粋・紹介する。

※下表には、具体的な性暴力被害時の経験などに触れる記述が多く含まれます。読むことでストレスを感じたり、気分が悪くなったりすることもあるかもしれませんので、その場合には、読むのをやめたり、中断して休むなどしてください。

(1) アンケートで答えきれなかった被害のこと

図表 2-59 自由意見(アンケートで答えきれなかった被害のこと)

アンケートで答えきれなかった被害のこと
<ul style="list-style-type: none">・ 何度も痴漢や盗撮などの被害にあっていると、嫌でも知らない異性が近くにいると吐き気を催し、心拍数上昇やめまいなども頻繁に起こる。・ 加害者に「何年経ってもその瞬間の記憶は薄れないし、ずっとトラウマになっていること」を知ってほしい。・ 早い年齢から性犯罪に対する知識をつける事の大切さを感じました。・ 男の立場ではありますが痴漢をされた際、とても怖く感じました。それと同時にどうしていいか分からず、体が固まってしまった。・ 訴えがあれば真剣にしっかりと調査をしてほしい。・ 最近は手口が巧妙になってきて気づきにくい部分もある。・ 高校生の時、ほぼ毎日被害に遭っていました。何故かその当時よりも今の方が思い出しては涙が出てきます。・ だいぶ前のことだから、アンケートに協力できると思ったが、たったこれだけの事を書くだけで動悸がする自分に驚いた。・ 学生時代の痴漢を、親の独断で、何事もなかったかのようにされて当時辛かった。・ 私の場合は電車に乗り合わせた人や警察、鉄道職員、家族など、さまざまな方が寄り添って対応してくれました。・ 直近での被害は、半年以上毎朝ホームで同じ人にストーカーのように待ち伏せをされて、時間や乗車位置を変えても追われてしまい辛かった。・ 電車内ではみなさん携帯電話しか見ていないことが多く、気づいてもらえませんでした。・ 被害を受けたとき、すぐに逃げられてしまい、捕まらないと思い、通報するのをやめてしまった。・ 当時は警察に行っても犯人の顔も見えていないし、捕まらないだろうし、なにより警察の調査で色々思い出して話さなければいけないのが嫌で、警察にいけなかった。・ 痴漢の被害に会う前から、痴漢の存在や対処法も何となく知っていましたが、いざ自分が被害にあうと何も出来ませんでした。

(2)今後の取組で期待すること

図表 2-60 自由意見（今後の取組で期待すること）

行政への要望
<ul style="list-style-type: none">・ 被害者のその後のケアを回復するまで行政が無料でして頂きたい（心理カウンセリングなどの支援）。・ すぐに対応できず後からいらいらしてきたりダメージが来てしまう、といった被害者も少なくないと思うので気軽に相談できる場所があるとよい。・ 被害者に落ち度は全くなく、加害者が100%悪いという態度を一貫して示して欲しい。・ 夜も女性専用車両があった方がよいと思う。・ 田舎だろうが、都会だろうが関係なく専用車両作って欲しい。・ 聴取の時間を予測できる目安を教えて欲しい。職場に第三者から遅れる旨を伝えて欲しい。・ 被害にあわないような社会づくり、被害者に対する専門家によるメンタルケア、被害を軽く捉えないよう国民の意識に植え付ける広報活動。・ 同性からの被害や男性が受けた被害についてもより深刻に捉えられ、行政などに相談しやすくなること。・ 痴漢被害による遅刻・欠席扱いなど、社会的にマイナスになることがないようにして欲しい。・ 実際に性被害にあったらどのような行動を取るべきなのか、法律的にどのような手続きを踏めば犯人を取り締まることができるのか、といった情報が手軽に手に入るような周知啓蒙活動が必要。・ 携帯操作のみで痴漢の通報ができるようなシステム、アプリ等がほしい。・ 近年、駅のホームなどでも痴漢は犯罪である旨のポスターや痴漢されていることを周囲に知らせる、もしくは確認をするなどのアプリのポスターが目立つようになり、以前よりも声が挙げやすくなった。・ 声を上げやすい環境作りなど今以上に進んだらとても嬉しいです。
警察・相談機関等への要望
<ul style="list-style-type: none">・ 門前払いせず被害届を受理してくれる世の中になって欲しい。・ 警察に話しても特に何もしてくれない。・ 被害者の話を否定しないで欲しい。・ 警察や駅員などに被害に遭ったことを話した時に理解があるか、受け入れてもらえるかを気にする人も多い。
社会への要望
<ul style="list-style-type: none">・ 被害者が声を上げるのが恥ずかしいと思ってしまう社会では痴漢がなくなることはないと思います。・ 痴漢被害を見つけた時に見て見ぬ振りをせず助ける優しさを一人一人持ってほしい。・ 性別や年齢に関わらず1人でも多くの被害者の声を真摯に受け止めてほしい。

参考資料 アンケート質問票

下記にアンケート質問票を示す。

1) スクリーニング調査

スクリーニング調査 質問票

アンケート画面開始

Page 1

痴漢は、重大な犯罪です。被害者の心身を深く傷つける行為であり、被害はけっして軽くありません。しかし、被害にあっても相談や申告がしにくいという声も聞かれ、被害の潜在化も懸念されています。この調査は、若年層の痴漢被害の実態・傾向や痴漢被害に対する認識を把握し、痴漢被害の対策のあり方を検討することを目的として、内閣府の依頼により実施するものです。

アンケートへの回答はご負担かと思いますが、ご協力いただけますと大変ありがたいです。アンケートは、多くは選択式で、約15分程度で終了する内容となっています。

ご協力をいただける方は、このページをよくお読みください。そして、同意いただける場合には、「アンケートに回答する」にチェックをした上で、次のページに進んでください。

【アンケートへのご協力について】

- ・このアンケートでは、あなた自身があわれた痴漢の被害についておたずねします。
- ・この先、被害内容を具体的に質問します。そのため、負担に感じる場合もあるかもしれません。回答するのがつらいと感じた場合には、回答をやめ、休む時間を取ってください。もしくは、アンケートへの回答自体をやめてもかまいません。
- ・けっして無理をせず、あなたのこころとからだを一番大切にしてください。
- ・なお、回答後に、ご自身の被害について、誰かに相談したい気持ちになった場合は、最寄りの性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターにつながる全国共通番号「#8891(はやくワンストップ)」、性暴力に関するSNS相談「Cure time(キュアタイム)」までご連絡ください。

●#8891(はやくワンストップ)
https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/seibouryoku/consult.html
●Cure time(キュアタイム) <https://curetime.jp/>

【プライバシーについて】

- ・このアンケートでは、個人が特定される内容はうかがいません。
- ・回答の内容の多くの項目は、統計的にまとめられます。
- ・自由に記述いただく項目についても、個人が特定されかねない情報が含まれていた場合、すべて削除した上で取り扱います。

【アンケート実施・お問い合わせ先】(受付時間 平日 9:30~18:00)
株式会社リベルタス・コンサルティング 担当:富永(とみなが)
TEL:080-4326-9159(直通)

F1

以上の内容を確認いただいて、同意していただける場合は、「アンケートに回答する」にチェックをしてから、以降の質問に回答をお願いいたします。

- 1 アンケートに回答する
- 2 アンケートに回答しない

次へ

F1

以上の内容を確認いただいて、同意していただける場合は、「アンケートに回答する」にチェックをしてから、以降の質問に回答をお願いいたします。

- 1 アンケートに回答する
- 2 アンケートに回答しない

次へ

0 50 100(%)

改ページ

Page 2

SC1

あなたの性別または性自認をお答えください。

- 1 女性
- 2 男性
- 3 その他

次へ

0 50 100(%)

改ページ

Page 3

SC2

あなたの年齢をお答えください。

歳

次へ

0 50 100(%)

改ページ

Page 4

SC3

あなたが現在お住まいの都道府県をお答えください。

▼

次へ

0 50 100(%)

SC4

次の性暴力のうち、1)これまでに被害を受けたものがありますか。(いくつでも)
また、2)特に今まで以上に行政等による対策が必要だと思うものを3つまで選んで下さい。(3つまで)

	1	2
	これまでに被害を受けたもの	特に今まで以上に行政等による対策が必要だと思うもの
同意のないわいせつな行為(暴力や脅迫を用いられたものに限らない)	1 <input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/>
同意のない性交など(暴力や脅迫を用いられたものに限らない性交、肛門性交、口腔性交、もしくは膣や肛門に指や物などを挿入する行為)	2 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>
痴漢(路上や商業施設などの公共の場所または電車やバスなどの公共の乗り物において、衣服の上からまたは直接接触されたり、あなたの同意がなくされたひわい・わいせつな行為。なお、ぶつかられた、怒鳴られた、じっと見られたなどの迷惑行為は除きます)	3 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>
盗撮(下着や性的部位をひそかに撮影されるもの)	4 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>
レイプドラッグ(相手の意識をもうろうとさせ、抵抗できない状況にして、性行為を行うために飲み物や食べ物に混ぜて使う睡眠薬などのクスリ)を用いて性的行為をされた	5 <input type="checkbox"/>	5 <input type="checkbox"/>
酔わされて同意のない性的行為をされた	6 <input type="checkbox"/>	6 <input type="checkbox"/>
SNSを通じて性的な画像や動画を送るよう要求された	7 <input type="checkbox"/>	7 <input type="checkbox"/>
SNSを通じて出会った人から性的な行為を要求された	8 <input type="checkbox"/>	8 <input type="checkbox"/>
アダルトビデオへの出演被害	9 <input type="checkbox"/>	9 <input type="checkbox"/>
性的な画像や動画を同意なくインターネット等に投稿/掲載された	10 <input type="checkbox"/>	10 <input type="checkbox"/>
セクシュアルハラスメント	11 <input type="checkbox"/>	11 <input type="checkbox"/>
当てはまるものはない	12 <input type="checkbox"/>	12 <input type="checkbox"/>
	これまでに被害を受けたもの	特に今まで以上に行政等による対策が必要だと思うもの
	1	2



次へ



SC5

これまでに、1)あなた以外の人が痴漢被害にあっているのを目撃したことはありますか。

また、2)友人や知り合いからその人が痴漢被害にあった話を聞いたことはありますか。
(それぞれひとつずつ)



あ
る

な
い

1 あなた以外の人が痴漢被害にあっているのを目撃したこと 1 2

2 友人や知り合いからその人が痴漢被害にあった話を聞いたこと 1 2

次へ

0 50 100(%)

改ページ

SC6

あなたは現在、通勤・通学時などの日常的な外出時に痴漢にあうのではないかと不安を感じていますか。

- 1 はい
- 2 いいえ
- 3 わからない

次へ

0 50 100(%)

改ページ

SC7

このあと、あなたが受けた痴漢被害について、さらに詳しい内容をおうかがいするアンケートにもご協力をお願いしたいと考えています。
そのようなアンケートにもご協力いただけますか。

- 1 協力できる
- 2 協力できない

次へ

0 50 100(%)

2) 本調査

本調査 質問票

アンケート画面開始

Page 1

【アンケートへのご協力について】
・この先、被害内容を具体的に質問します。回答するのがつらいと感じた場合には、回答をやめ、休む時間を取ってください。アンケートへの回答自体をやめても構いません。決して無理をしないでください。
・痴漢は犯罪です。痴漢被害にあった方にはまったく責められる点はありません。加害者に責任があります。

【プライバシーについて】
・このアンケートは、痴漢被害の対策のあり方を検討することを目的に行うものです。
・このアンケートが上記目的以外に使われたり、個人の特定につながったりすることは一切ありません。

次へ

0 50 100(%)

改ページ

Page 2

Q1
これまでに、何回くらい痴漢※被害にあったことがありますか。
※路上や商業施設などの公共の場所または電車やバスなどの公共の乗物において、衣服の上からまたは直接接触されたり、あなたの同意がなくされたわいせつな行為。
なお、ぶつかられた、怒鳴られた、じっと見られたなどの迷惑行為は除きます。

- 1 1回
- 2 2回
- 3 3～5回
- 4 6～10回
- 5 11回以上

次へ

0 50 100(%)

改ページ

Page 3

Q2
2回以上痴漢の被害にあったと答えた方にお聞きします。
加害者は同じ人物ですか、別の人物ですか。

- 1 すべて同じ人物
- 2 すべて別の人物
- 3 同じ人物の時もあった
- 4 わからない

次へ

0 50 100(%)

Q3

はじめて痴漢被害を受けた時の年齢をお答えください。

歳

次へ

0 50 100(%)

改ページ

★ここからは「直近で受けた痴漢被害」についておうかがいします。

Q4

直近で受けた痴漢被害についておうかがいします。
そのときの年齢をお答えください。

歳

次へ

0 50 100(%)

改ページ

Q5

直近で受けた痴漢被害についてお聞きます。
そのときのあなたの職業・学校をお答えください。

- 1 高校生
- 2 専門学校生・短大生・大学生・大学院生
- 3 会社員・公務員
- 4 パート・アルバイト
- 5 自営業・自由業
- 6 専業主婦・主夫
- 7 無職
- 8 その他

次へ

0 50 100(%)

Q6

直近で受けた痴漢被害についておうかがいします。
そのときに住んでいた都道府県をお答えください。

次へ

0 50 100(%)

改ページ

Q7

直近で受けた痴漢被害についておうかがいします。
何時ごろ被害にあいましたか。

- 1 0:00～3:00
- 2 3:00～6:00
- 3 6:00～9:00
- 4 9:00～12:00
- 5 12:00～15:00
- 6 15:00～18:00
- 7 18:00～21:00
- 8 21:00～24:00

次へ

0 50 100(%)

改ページ

Q8

直近で受けた痴漢被害についておうかがいします。
どこで被害にあいましたか。

- 1 電車内
- 2 駅構内(階段・エスカレーター)
- 3 駅構内(ホーム)
- 4 駅構内(上記2～3以外のその他の場所)
- 5 バス
- 6 その他公共の乗り物(飛行機、船等)
- 7 路上
- 8 ショッピングモール等の商業施設
- 9 書店
- 10 映画館
- 11 ライブ・コンサート会場などのイベント会場
- 12 ゲームセンター・パチンコ店
- 13 その他の公共の場所
- 14 その他

次へ

0 50 100(%)

Q9

直近で受けた痴漢被害についておうかがいします。
あなたは、どこに向かう途中でしたか。

- 1 学校
- 2 勤務先
- 3 自宅
- 4 塾
- 5 受験
- 6 アルバイト
- 7 遊び
- 8 その他

次へ

0 50 100(%)

改ページ

Q10

直近で受けた痴漢被害についておうかがいします。
加害者の性別はどちらでしたか。

- 1 異性
- 2 同性
- 3 よくわからない

次へ

0 50 100(%)

改ページ

Q11

直近で受けた痴漢被害についておうかがいします。
どのような被害を受けましたか。(いくつでも)

- 1 服の上から体を触られた
- 2 直接、体(素肌)を触られた
- 3 手を握られた
- 4 下着の上から体を触られた
- 5 下着の中に手を入れられた
- 6 体を密着された
- 7 ホックやボタンを外された
- 8 抱きつかれた
- 9 なめられた
- 10 キスをされた
- 11 異物をカバンなどに入れられた
- 12 匂いがかがれた
- 13 性器を見せられた
- 14 不快なわいせつなことを言われた
- 15 わいせつな画像を見せられた/送られてきた
- 16 スカートの中などを撮影された
- 17 体液をかけられた
- 18 服を切られた
- 19 その他

次へ

0 50 100(%)

Q12

直近で受けた痴漢被害についておうかがいします。
被害にあった際、あなたはどのような対応をしましたか。(いくつでも)

- 1 怖くて体が動かなかった
- 2 とっさのことで何もできなかった
- 3 混んでいて何もできなかった
- 4 我慢した
- 5 体の向きを変えた
- 6 持っている物で加害者の行為をブロックした
- 7 その場から離れた/逃げた
- 8 その場にしゃがみこんだ
- 9 加害者の手をつかんだ
- 10 加害者の手を振り払った
- 11 振り返って加害者の顔を見た、にらんだ
- 12 声をあげた
- 13 周囲の人に助けを求めた
- 14 痴漢対策のアプリや防犯ブザーなどの防犯グッズを使った
- 15 その他

次へ

0 50 100(%)

改ページ

Q13

直近で受けた痴漢被害についておうかがいします。
前問の対応をした、あるいは対応できなかった結果、どうなりましたか。
(いくつでも)

- 1 痴漢行為が続いた
- 2 痴漢行為がエスカレートした
- 3 痴漢行為が止まった
- 4 周りの人が気づいて助けてくれた
- 5 加害者があなたから離れた/逃げた
- 6 その他

次へ

0 50 100(%)

改ページ

Q14

直近で受けた痴漢被害についておうかがいします。
あなたは、周囲の人に助けを求めましたか。

- 1 はい
- 2 いいえ
- 3 わからない

次へ

0 50 100(%)

Q15

直近で受けた痴漢被害についておうかがいします。
周囲の人はあなたの被害に気がつきましたか。

- 1 はい
- 2 いいえ
- 3 わからない

次へ

0 50 100(%)

改ページ

Q16

直近で受けた痴漢被害についておうかがいします。
周囲の人に助けを求めたり、周囲の人が気づいたりしたと答えた方にお聞きします。
周囲の人はどのように対応してくれましたか。(いくつでも)

- 1 何もしてくれなかった
- 2 あなたを物理的に移動させて、または移動できるようにして、助けてくれた
- 3 あなたに声をかけてくれた
- 4 加害者に行為をやめるよう働きかけてくれた
- 5 加害者を捕まえてくれた
- 6 一緒にいてくれた
- 7 加害者の引き渡しやあなたが被害を警察に通報するのを手伝ってくれた
- 8 警察に通報してくれた
- 9 関係機関の職員(交通機関の職員、お店の職員など)に連絡してくれた
- 10 その他

次へ

0 50 100(%)

改ページ

Q17

直近で受けた痴漢被害についておうかがいします。
周囲の人が前問の対応をした、あるいは対応できなかった結果、どうなりましたか。
(いくつでも)

- 1 痴漢行為が続いた
- 2 痴漢行為がエスカレートした
- 3 痴漢行為が止まった
- 4 別の周りの人が気づいて助けてくれた
- 5 加害者があなたから離れた/逃げた
- 6 その他

次へ

0 50 100(%)

Q18

直近で受けた痴漢被害についておうかがいします。

被害を警察や関係機関の職員(交通機関の職員、お店の職員など)に知らせましたか(あなた以外の人がした場合も含む)。(いくつでも)

- 1 警察に知らせた(被害後すぐに)
- 2 警察に知らせた(後日)
- 3 関係機関の職員(交通機関の職員、お店の職員など)に知らせた(被害後すぐに)
- 4 関係機関の職員(交通機関の職員、お店の職員など)に知らせた(後日)
- 5 警察や関係機関の職員には知らせなかった

次へ

0 50 100(%)

改ページ

Q19

直近で受けた痴漢被害についておうかがいします。

加害者はその後どうなったか知っていますか。

- 1 加害者が誰か判明して、警察に連れて行かれた
- 2 加害者が誰か判明しなかった
- 3 加害者がその後どうなったかわからない
- 4 その他

次へ

0 50 100(%)

改ページ

★ここからは「(直近で受けた痴漢被害を含む)これまでに受けた痴漢被害」についておうかがいします。

Q20

これまでに受けた痴漢被害についておうかがいします。

1)周囲の人があなたの被害に気づいたり、2)何らかの対応をしてくれたりしたことはありますか。(それぞれひとつずつ)



あ な わ
る い か
ら
な
い

- 1 周囲の人があなたの被害に気づいたこと 1 2 3
- 2 周囲の人が何らかの対応をしてくれたこと 1 2 3

次へ

0 50 100(%)

Q21

これまでに受けた痴漢被害についておうかがいします。
だれ/どこかに相談したことがありますか。(いくつでも)

- 1 友人・知人
- 2 家族
- 3 学校の先生(学級担任や保健室の先生など)、カウンセラーなど
- 4 職場の人(上司、同僚など)
- 5 性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターなどの相談機関
- 6 キュアタイムなどのSNS相談
- 7 警察
- 8 関係機関の職員(交通機関の職員、お店の職員など)
- 9 その他
- 10 どこにも相談しなかった

次へ

0 50 100(%)

改ページ

Q22

これまでに受けた痴漢被害についておうかがいします。
これらの方は、あなたにどのようなことをしてくれましたか。(それぞれいくつでも)

- あなたの話を聞いてくれた
- あなたが取るべき行動を助言してくれた
- あなたを慰めてくれた/励ましてくれた
- 捜査してくれた
- あなたの気持ちを理解してくれた
- 的外れな助言をされた
- あなたを非難した
- 何もしてくれなかった
- 専門機関(警察、相談機関など)に相談してくれた
- その他



1 友人・知人	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
2 家族	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
3 学校の先生(学級担任や保健室の先生など)、カウンセラーなど	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
4 職場の人(上司、同僚など)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
5 性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターなどの警察以外の相談機関	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
6 キュアタイムなどのSNS相談	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
7 警察	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
8 関係機関の職員(交通機関の職員、お店の職員など)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
9 その他(○○○(Q21_SNT9_1回答再掲))	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

次へ

0 50 100(%)

Q23

これまでに受けた痴漢被害についておうかがいします。
友人・家族・相談機関などに(警察は除きます)相談しなかった理由をお答えください。
(いくつでも)

- 1 学校や仕事に遅れると思ったから/急いでいたから
- 2 相談するほどのことではないと思ったから
- 3 おおごとにしたくなかったから
- 4 誰にも知られたくなかったから、心配させたくないから
- 5 痴漢被害なのか確証が持てなかったから
- 6 被害を思い出したくなかったから/早く忘れたかったから/被害のことを話すのがつらかったから
- 7 自分にも悪いところがあると思ったから
- 8 加害者を捕まえる手がかりがなく、相談できないと思ったから
- 9 加害者からの仕返しが怖かったから
- 10 どこ(だれ)に相談してよいかわからなかったから
- 11 相談相手の言前によって不快な思いをさせられると思ったから
- 12 ショックで何も考えられなかったから
- 13 その他

次へ

0 50 100(%)

改ページ

Q24

これまでに受けた痴漢被害についておうかがいします。
警察に通報しなかった理由をお答えください。(いくつでも)

- 1 学校や仕事に遅れると思ったから/急いでいたから
- 2 通報するほどのことではないと思ったから
- 3 おおごとにしたくなかったから
- 4 痴漢被害なのか確証が持てなかったから
- 5 事情聴取などに時間がかかりそうだったから
- 6 通報した後どのようなことが求められるのかわからなかったから
- 7 加害者が逃げてしまったから
- 8 加害者の顔を見ていなかったから
- 9 加害者は捕まらないと思ったから
- 10 加害者からの仕返しが怖かったから
- 11 加害者が処罰されてしまうかもしれないから
- 12 被害を通報する中で不快な思いをさせられると思ったから
- 13 ショックで何も考えられなかったから
- 14 その他

次へ

0 50 100(%)

改ページ

Q25

これまでに受けた痴漢被害についておうかがいします。
被害にあった後、何かあなたの生活に影響が生じたことがありましたか。
(いくつでも)

- 1 転居(引越し)をした
- 2 電車や公共交通機関の乗り物に乗れなくなった
- 3 外出するのが怖くなった
- 4 異性と接するのが怖くなった
- 5 学校・大学を休んだ、やめた、変えた
- 6 仕事を休んだ、やめた、変えた
- 7 被害を受けた時の感覚がよみがえるようになった
- 8 心身に不調をきたした
- 9 進学先や就職先の進路に影響した
- 10 特にない
- 11 その他

次へ

0 50 100(%)

Q26

これまでに受けた痴漢被害についておうかがいします。
被害にあった後、あなたは被害にあわないために行動を変えたことがありましたか。

- 1 変えたことがある
- 2 変えたことはない
- 3 わからない

次へ

0 50 100(%)

改ページ

Q27

行動を変えたことがあると答えた方に伺います。
どのようなことを変えましたか。(いくつでも)

- 1 家族や友人と通学・通勤するようになった
- 2 人が集まる場所に行かなくなった
- 3 夜間、出歩かなくなった
- 4 電車・バス等の乗る場所を変えた
- 5 電車・バス等の時間を変えるなど、通学・通勤時間を変えた
- 6 通学・通勤経路を変えた
- 7 防犯アプリや防犯ブザーなどの防犯グッズを使うようになった
- 8 その他

次へ

0 50 100(%)

改ページ

Q28

痴漢被害について、世の中でどのように考えられていると感じますか。

- 1 被害の深刻さが十分理解されていると感じる
- 2 被害の深刻さがおおむね理解されていると感じる
- 3 被害が軽くとらえられていると感じる
- 4 関心を持たれていないと感じる
- 5 わからない

次へ

0 50 100(%)

Q29

アンケートで答えきれなかった被害のこと、行政等の取組で期待することなどがあれば自由にお書きください。

最後までご回答いただき、誠にありがとうございました。
皆さまからいただいた大切な回答内容・ご意見は、個人が特定されないようにアンケート結果としてまとめ、政府による性暴力被害を受けた若い世代のための施策の検討などに活用いたします。このアンケートが上記目的以外に使われることは一切ありません。
なお、回答後にご自身の被害について、誰かに相談したい気持ちになった場合は、最寄りの性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターにつながる全国共通番号「#8891(はやくワンストップ)」、性暴力に関するSNS相談「Cure time(キュアタイム)」までご連絡ください。

- #8891(はやくワンストップ) https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/seibouryoku/consult.html
- Cure time(キュアタイム) <https://curetime.jp/>

【プライバシーについて】

- ・回答の内容の多くの項目は、統計的にまとめられます。
- ・自由に記述いただく項目についても、個人が特定されかねない情報が含まれていた場合、すべて削除した上で取り扱います。

【アンケート実施・お問い合わせ先】(受付時間 平日 9:30~18:00)
株式会社リベルタス・コンサルティング 担当:富永(とみなが)
TEL:080-4326-9159(直通)

送信

0 50 100(%)